

昭31(1956)年

京	都	府
1・3 京都音楽家クラブ結成。音大紀要 11		5・12 京都交響楽団、日本最初の地方自治体の交響楽団として発足、岡崎公会堂で編成式(団員38人)。 京都音楽史、京都 5・13
1・21 京都演劇研究所第1回公演(労働会館、主催京都演劇くらぶ)。 京都 1・20		5・12~27 世界映画展(京都新聞社主催、丸物百貨店)。 京都 5・3
1・29 えくらん社俳優養成所の指導部と卒業生による劇団「鳩」第1回公演(弥栄会館)。 京都 1・16		5・19、20 劇団創芸第1回公演(労働会館)、水木洋子作「また逢う日まで」、小泉八雲作「青柳のはなし」上演。 京都 5・18
1・一 芳村伊十郎を中心に東西合同長唄研究団体鶴声会発足、第1回発表会(先斗町歌舞練場、今藤長十郎・藤舎呂船ら)。 京都 1・19		5・20 第1回関西柳容会舞踊会(花柳寿慶指導、祇園甲部歌舞練場)。 京都 5・19
2・5 東千代之介、市川雷蔵らが洛若手人気スター24名、日本俳優協会府青年部結成。 京都 2・6		6・7 小唄田村古柳没(75歳)。 京都 6・15
2・12 西川霞江指導、西川環主宰第1回西川流舞踊たまき会(祇園会館)。 京都 2・7		6・18、19 京都市交響楽団初演奏(18日先斗町歌舞練場、19日円山音楽堂)。 京都音楽史
2・12 京都芸術家国民健康保健組合、基金募集のため第1回芸能祭(先斗町歌舞練場)。 京都 2・10		6・23 4月に若手俳優の修練道場として誕生した松竹演劇塾研究公演(南座)。 京都 6・19
2・14 京都文楽会第10回記念公演、文楽座人形浄瑠璃引越興行(祇園甲部歌舞練場)吉井勇の「かにかくに」初演。 京都 2・17		6・26 中国京劇代表団(梅蘭芳ら)入洛、27、28日南座で公演。 京都 6・27
2・17 京舞井上流家元、井上八千代紺綬褒章伝達式。 京都 2・18		6・27 関西交響楽団第19定期演奏会京都公演、第二部を宮城道雄の追悼演奏会に変更(松竹座)。 京都 6・28
2・18 京都音楽界の功労者、吉田恒三、紫綬褒章受賞。 音大紀要 11		7・8 京都市在住芸能人による京芸クラブ結成、発会式をかねて第1回芸能カーニバル(京都新聞ホール)。 京都 7・5
2・28 大映京都、スクリーン・プロセスステージ(400坪)上棟式。 京都 2・24		7・11 京都市交響楽団、第1回巡回市民コンサート(二条城内広場、二条城夜間開放は昭15の一般公開以来)。 京都 7・12
2・一 京大教育学部、非常勤講師として映画演劇・放送などの講義を各界一流の担当者によって開講することを教授会で決定。 京都 2・		7・17 祇園祭、600年の伝統を破って新コース(御池通)を巡行、また、戦後はじめて有料観覧席(3,900席)設置。 京都 7・17
3・3、4 先斗町水明会、今年から二部制を採用。 京都 3・6		7・22 N響管楽器演奏会(円山音楽堂)、関西初。 京都 7・8
3・11 茂山追善能(金剛能楽堂)、金春・喜多・観世・金剛の宗家顔合せ。 京都 3・2		7・一 上方演芸第1回公演(南座)。 京都 7・24
3・26 河村能楽堂(上京区烏丸上立売上ル)竣工、舞台披き。 京都 3・26		7・一 京都邦楽連盟、入場税の軽減を全国に先がけて関係当局へ請願。 京都 7・15
4・1 長宗我部はま子バレエ研究所独立10周年記念発表会(弥栄会館)。 京都 4・2		8・1、2 第1回全京都こども芸能大会(南座、京都新聞社主催)。 京都 7・30
4・7、8 文楽座創立20周年記念公演(弥栄会館)、福田恆存の詩劇「明暗」上演。 京都 4・12		8・6 清元清元正太郎没(46歳、清元正美会主宰)。 京都 8・16
4・13 東京混声合唱団演奏会(成安会館)京都初公演。 京都 4・13		8・9 劇団若い人(護王神社内、4月誕生)、旗上げ公演(円山音楽堂)。 京都 7・29
4・21 東京交響楽団特別演奏会(円山音楽堂)市土曜コンサート50回記念公演。 京都 4・21		8・10 スカラ座開館(定員964)。 京都 8・4
5・1 チェリウス、京響常任指揮者に就任。 京都音楽史		8・15 雅楽の夕、二条城を夜間開放して開催(出演平安雅楽会員ら30名)。 京都 8・9
5・11 裏千家茶道会館(茶道練成道場)第1期工事完工と茶室命名(花心)式。 京都 5・12		8・26 京都ポップス交響楽団、バレエ音楽の夕(京都新聞ホール)。 京都 8・21
		9・1 古典郷土芸術、鉄仙流踊り、北白川愛郷会によって復活、発表会を開催。 京都 8・29

京	都	府	日	本
9・6 市立音楽短大、左京区聖護院円頓美町旧武道専門学校へ移転。 京都 9・4			1・1 大阪道頓堀に文楽座(昭8・8・8朝日座と改称)新築開場。新作も上演。	
9・8 日雇労働者による劇団栄光会、伏見自由労組事務所に誕生、第1回公演(伏見公会堂)。 同上			2・28 新世界レコード(株)設立(ソ連レコードを製造販売)。	
9・12 西陣を舞台にした映画「夜の河」(大映、総天然色、監督吉村公三郎、出演、山本富士子・上原謙ら)封切。 京都 9・12			3・10 シュトゥットガルト室内オーケストラ演奏会(ミュンヒンガー指揮、日比谷)。	
9・26 新観世会館地鎮祭(岡崎、年内着工、翌年5月完工予定)。 京都 9・26			4・9 ウィーン=フィルハーモニー交響楽団来日第1回演奏会(ヒンデミット指揮、日比谷、~4・27)。	
9・29 国家指定芸能特別鑑賞会、重要無形文化財指定の邦楽界最高の顔ぶれ(南座、芳村伊十郎・清元志寿太夫・清元栄寿郎・清元寿兵衛・常磐津文字兵衛・富崎春昇・竹本綱太夫・鶴沢清六)。 京都 9・15			5・28 稀音家浄観没(明7生、82歳、長唄三味線方)。	
9・一 市、在洛アマチュア劇団の育成を目的に京都市民劇場を設立(加盟劇団、劇団京芸・京都演劇研究所・くるみ座・青年芸術劇場・シアトロトフン)。 京都 9・29			5・30 京劇の梅蘭芳一行、再び来日し、歌舞伎座で公演(~6・2)。	
9・一 京都在住芸能人親ばく協力団体京芸プロジェクト結成(事務所、中京区釜座通丸太町南)。 京都 9・3			6・25 宮城道雄没(明27生、62歳、箏曲演奏家・作曲家)。	
9・一 京都の華道家元2世による研究機関家元二世集団結成。 京都 9・12			8・24 溝口健二没(明31生、58歳)。	
10・24 大宮東映劇場、開館。 東映10			9・14 外山雄三・岩城宏之、N響臨時演奏会で指揮者としてデビュー。	
10・一 京響友の会設立。(会員1,000名)。 京都 10・23			9・23 日本フィルハーモニー交響楽団結成披露演奏会(指揮渡辺暁雄、日比谷)。昭32・4第1回定期演奏会。	
11・3 京都市内の音楽と郷土芸能を一堂に集め市民のつどい(京都市主催、円山音楽堂、「六斎」「紅葉音頭」など上演)。 京都 11・3			9・29 イタリア歌劇団第1回公演(<アイーダ><トスカ>ほか、シミオナート・ステラほか、指揮グイ、N響、東京宝塚劇場、NHKテレビ中継、~10・28。昭34・2、昭36・9、昭38・10、昭42・9)。	
11・4 婦人能「清経」、豊星会に初めてのこころみ(金剛能楽堂)。 京都 10・31			11・16 大阪に梅田コマスタジアム開場。12・8新宿コマスタジアムも開場。	
11・4 邦楽による能、邦楽オペラに仕上げ邦楽連盟大会に初公演(歌舞練場)。 京都 10・3			12・1 映倫、太陽族映画問題などを契機に改組、新発足(業者から独立)。	
11・11 若柳吉葉の第1回葉柳会(先斗町歌舞練場)。 京都 11・9			12・26 青山杉作没(明22生、67歳)。	
11・23 日本フィルハーモニー交響楽団京都初公演(弥栄会館、本年6月編成)。 京都 11・4			この年 ▷ アジア諸国との文化交流さかん。10月里見弴・内山完造・名取洋之助ら訪中、11月青野季吉・宇野浩二ら第1次文学代表団訪中。	
11・28 坂東三津右衛門(吾妻カブキ一行と欧米巡業)帰国記念舞踊会(先斗町歌舞練場)。 京都 11・25			▷ 12・5 狂言座、茂山七五三・千之丞・野村万作らに劇団坂東鶴之助・乙羽信子を迎え祇園歌舞練場に京都公演。 京都 12・3	
11・一 南洋館(九条大宮東入)開館。 京都 11・17			12・8 演曲、伊丹季子引退披露公演(パレス大劇場)。 京都 11・27	
12・1~26 顔見せ、市川寿海・片岡仁左衛門・中村富士郎・坂東義助ら関西歌舞伎中心に、東京から市川猿之助・中村時蔵ら、「助六」。 京都 11・6			12・13 三宅周太郎(演劇評論家64歳、右京区桂野里町50)、第1回京都新聞文化賞受賞。 京都 12・13	
12・2 顔見世の大どん帳新調(日本画家、西山英雄原図)。 京都 12・3			12・14 伏見大映開館。 京都 12・15	
			12・15、16 京芸、創作劇「西陣のうた」上演(先斗町歌舞練場)。 京都 12・14	

京	都	府
1・22 京舞井上流家元4世井上八千代、日本芸術院会員に推薦任命。 京都 1・23		
1・28 京都府衛生部、京都興行協会に対し映画1回当たり上映時間を京都市内2時間30分、郡部3時間以内に自粛を要望。 京都 1・29		
1・一 シャンソン友の会ダシヤ結成。 京都 1・30		
1・一 京都興行界の不景気の影響で、弥生座、文映など55円2本立劇場に転向。 京都 2・25		
1・一 松竹京都撮影所、所内に松竹演技研究所を新設。 京都 1・18		
2・2、3 劇団民芸、芸術祭参加文部大臣賞受賞「アンネの日記」京都公演、弥栄会館に開催(出演、滝沢修・信欣三ら)。 京都 1・16		
2・4 京都市立音楽短大教授、豊増昇、芸術院賞受賞。 京都 2・5		
2・12 西独政府、京都市交響楽団に対し、オーケストラ楽譜26組を寄贈。 京都 2・12		
2・27 諏訪根白子・関西交響楽団二大協奏曲の夕、パレス大劇場に開催。 京都 2・27		
2・28 京紫会10周年記念藤間勘五郎舞踊会、南座に開催。 京都 2・13		
3・1～10 前進座京都公演「友禅女房」(依田義賢作、河原崎しづ江主演)、南座。 京都 2・27		
3・3 東西若手舞踊家第1回登竜会(祇園甲歌舞練場)。 京都 3・2		
3・7 ダークダックス、京都初のリサイタル。(弥栄会館)。 京都 2・19		
3・21 大江家五代竹雲17回忌追善能、大江能楽堂に開催(「恋重荷」など)。 京都 3・16		
3・27 裏千家家元、淡交社を淡交新社として再発足することを表明。 京都 3・28		
3・27 一絃琴演奏者山城一水(71歳)無形文化財に指定、5月に披露。 京都 5・16		
3・28 織田作之助創作歌劇「夫婦善哉」、弥栄会館に初公演(大栗裕作曲、武智鉄二演出、関西交響楽団・関西歌劇団)。 京都 3・8		
3・28 裏千家今日庵・表千家不審庵・藪内流燕庵、全国で初めて茶庭が名勝に指定。 京都 3・28		
3・一 地唄柳川流、萩原正吟、無形文化財に指定、6月50周年記念演奏会。 京都 4・1、6・6		
4・5 落語桂春太松、2代目玉団治を襲名披露(京都新聞ホール)。 京都 4・1		
4・6 京劇名画座(六角西木屋町)洋画1本ニュースは30映画館として開館。 京都 3・11		
4・9～14 文楽引越興行(南座)を機して文楽人形展(大丸)。 京都 4・6		
4・10、13、14 池坊短期大学、華道界初めて舞台へ進出し、いけばなショー(四条センター)。 京都 3・26		
4・18～23 文楽座人形浄瑠璃引越興行、南座に開催(「雪狐々姿湖」など)。 京都 4・14		
4・21 都山流尺八宗家中尾都山の流祖2世襲名披露、都ホテルに開催。 都山流70年史		
5・7 京都市内の民生歌舞伎、京都歌舞伎などの素人歌舞伎グループが合同して素人関西歌舞伎を結成、社会奉仕を目的に第1回公演(北野会館)。 京都 5・8		
5・11 昨年発足の狂言座、第1回狂言小劇場(河村能舞台)、明治以後廃曲の「樋の酒」復活。 同上		
5・16 京響1周年記念特別演奏会(円山音楽堂、カール・チェリウス指揮、歌劇イーゴル公より「ダッタン人の踊り」、リスト交響詩第三番「前奏曲」など)。 京都 5・17		
5・17 コンセールf(佐藤美子・四家礼子・関種子・長門美保により結成)、関西初公演(弥栄会館)。 京都 5・6		
5・26 第1回哥沢舞踊大会(芸能新潮社主催、祇甲歌舞練場)。 京都 5・23		
6・13 金剛流謡曲仕舞教室と並んで、観世流謡曲仕舞教室開講(大江能楽堂)。 京都 5・29		
6・25 京都観世会館、岡崎円勝寺疏水端に起工式、昭33・2完成予定。 京都 6・25		
6・一 児童芸術研究所(東山区林下町町)1年余の苦心作総合人形劇「竜介昇天」(1つの舞台にあらゆる形式の人形表現)発表。 京都 5・21		
7・1 五穀豊作祈願「御戸代能」(賀茂別雷神社)復活(戦後途絶)。 京都 7・2		
7・1 祇園祭協賛会、祇園祭音頭レコード(コロンビア島倉千代子・山形英天唄)新作、発売。 京都 5・24		
7・1 劇団人間座発足(11月第1回公演)。 新劇便らん、新劇京都創刊号		
7・14 祇園芸妓試験(祇園女子専門学校)、復活(昭18第1回以後毎年予定、戦争のため中止)。 京都 7・14		
7・14 京都箏曲連盟第1回箏曲納涼会、岡崎公会堂に開催。 京都 7・9		
7・17 祇園祭、今年より後祭(24日)まで菊水ボコを四条富小路西入ルに駐泊。 京都 7・18		
7・18 5世清元志寿太夫、無形文化財指定記念清元演奏会、祇甲歌舞練場に開催(「かさね」「夕立」など披露)。 京都 7・11		
7・29 関西喜劇人協会(関西在住の喜劇人を網羅)、京都ホテルに発会式。 京都 7・27		
7・30 謡曲仕舞教室第1期生卒業記念大会、金剛能楽堂に開催。 京都 7・31		

京	都	府	日	本
8・15 創立十周年日本映画協会(会長永田雅一)西部大会、京都府立医大ホールに開催。 京都 8・16			3・1 桜間弓川没明22生、67歳、金春流シテ方)。	
9・1 白川女風俗保存会、地元民の協力で「京の花売り白川女音頭」を完成、北白川校に初公開。 京都 8・30			3・26 中山梯一<冬の旅>独唱会(共立、～3・30。帰国第1回)。	
9・1～15 新派、南座に3年ぶり京都公演、京都島原を舞台にした「太夫さん」(北条誠演出、京塚昌子など出演)など。 京都 9・10			3・一 日本俳優協会発会。	
9・4 北野会館、座席をイス席に改造、どんちょう新調、新装披露式。 京都 9・5			6・25 喜多実ら14人の能楽団、パリのサラベルナル座で公演(～6・29)。	
9・14 第10回広田記念能、金剛能楽堂に開催。(「野宮」「望月」など)。 京都 9・10			8・2 松本幸四郎、文学座と福田恒存「明智光秀」を共演(東横ホール、～8・28)。	
9・19 京響、カール・チェリウス帰朝歓迎演奏会(円山音楽堂)。 京都 9・20			8・28 ボリショイ劇場バレエ団日本初公演(新宿コマ劇場、～8・31)。	
9・23 京都市主催第1回市民寄席、八坂倶楽部に開催(以後毎年5～6回、上方落語協会メンバーの出演で開催)。 京都 9・23、市民新聞 124			9・一 文楽の因会と三和会、10年ぶりに合同公演(文楽座)。	
9・一 演出劇場、弥栄会館に「いとしい恋人たち」(佐多稲子原作、柏倉敏之脚色、八田元夫演出)。京都初公演。 京都 9・3			10・31 カラヤンとベルリン=フィルハーモニー交響楽団来日。11・3初放送、11・4初公演(日比谷)。～11・23。	
10・1 南座2、3階食堂跡を改装し南座会館完成(舞踊・邦楽・謡曲などのけい古場)。 京都 10・9			この年 ▷ 徳川夢声紫綬褒章をうける。	
10・1 鴨川おどり第80回記念公演、歌舞練場に開催。 京都 10・5			11・22 京響、日比谷公会堂に東京初披露演奏会開催(18日名古屋市、19日浜松市、20日静岡市)。 京都 11・23	
10・5 素人能(紳士能)開花会、金剛能楽堂に旗あげ公演。 京都 10・1			11・22 文化財保護委員会、能楽を無形文化財に総合指定(40人、京都より笛方杉市太郎、シテ方豊島弥平)12・3 京都能楽会、今回の指定内容が東京偏重と抗議、片山九郎右衛門(観世流)能楽協会理事を辞任。 京都 11・23、30、12・3、4	
10・8 大覚寺、観月と御能の会を80年ぶりに開催(観世流大江又三郎など)。 京都 10・8			11・28～30 民芸京都公演(京都労演創立1周年記念)、「楡の木蔭の欲望」(滝沢修・宇野重吉・芦田伸介ら)。 京都 11・25	
10・10 尺八中尾都山追悼演奏全国大会(祇園歌舞練場)。 都山流70年史、京都 10・6			11・一 京都ドラマ劇場第1回公演(上京労働会館、「村の従妹」。「こいこく」)。 京都 昭41・8・22	
10・13 初代金剛殿7回忌追善能、観世・金春を迎え三流競演。 京都 9・27			12・1 京都のバレエ研究所合同集団キョウトバレエシアター(福本・桧垣・本城・池田バレエ研究所、有馬バレエ学園、野口バレエ教室、法村・友井舞踊京都教室)初公演(弥栄会館)。 京都 12・2	
10・25 5つの現代芸術の集り処女公演(音楽・田島正恵、バレエ、宮下靖子、詩、中江俊夫、生花、西阪慶美、絵画、小橋康秀)。 京都 10・26			12・1～26 顔見世(南座)、寿海らオール関西歌舞伎に東京より猿之助・時蔵・鶴之助・友右衛門参加。 京都 12・1	
10・25 マキノ省三顕彰会結成(代表月形竜之助)。 京都 10・9			12・8 青年芸術劇場・京都演劇研究所合同・人形座結成、先斗町歌舞練場に旗あげ公演(チエホフ「かもめ」)。 京都 12・9	
10・26 小鼓 林吉兵衛追善会、大江能楽堂に開催(主催木双会 濤調会)。 京都 10・24			12・12 京都小唄連合会(柳・春日・里園・蓼の4派連合)、発展的解消し、在京各派(寿喜本・堀ら)を加える。 京都 12・15	
10・26 京都に生れた古典「一中節」演奏会花笠会(祇甲歌舞練場)京都ではじめて公演(宇治紫友・杉浦治郎右衛門・武智鉄二)。 京都 10・25			この年 ▷ 京都島原を舞台とした「太夫(こつたい)さん」(新派上演、北条秀周作)、宝塚映画により映画化。 京都 5・24	
10・26、27 市民劇場開設1周年記念京都新劇団合同公演(くろみ座・京芸・テアトロトン・人間座)、弥栄会館に開催(田口竹男作「祇王寺」)。 京都 10・15、25				
11・12、13 文楽人形浄瑠璃三和会京都公演(桐竹紋十郎50年忌追善興行、先斗町歌舞練場、「鏡獅子」「日高川」など)。 京都 11・10				

京	都	府
1・1～22 十吾の家庭劇、結成後京都初公演(南座、「鼻の六兵衛」など)。 京都 1・1		
1・8 京都に初めて子供だけの管弦楽団、ジュニア管弦楽団、伏見に結成。 京都 1・9		
1・12 京都年中行事の会(会長吉川観方)正月風俗「吉例懸想文」と山崎聖天(乙訓郡大山崎町)のちよろけん舞を古式通り復活。 京都 1・13		
1・15 東映京都俳優会館など設備拡充完成記念式開催。 東映10年史、京都 1・18		
1・23 祇園東新地協同組合、売春防止法の完全発効を前に、祇園東新地お茶屋組合と京都祇園観光芸妓株式会社に分裂、2・11 観光芸妓、お茶屋組合を生活権問題で京都法務局に訴願。 京都 2・12		
1・24～29 文楽人形浄瑠璃総引越初春興行、山城少掾・難波掾ほか因会全員総出演(南座)。 京都 1・23		
1・一 古典器物研究会(石川春之助など)、能楽関係者などの協力により結成(古典的楽器などの研究)。 京都 1・5		
2・1 京都労演、全国初試みとして会員に観劇1割引き(南座)を実施。 京都 2・16		
2・1 邦舞、若柳吉兵衛没(62歳)、3・25 追悼舞踊会(先斗町歌舞練場)。 京都 3・25		
2・1～15 宮川町第9回京おどり(例年秋)、初めて南座に公演。 京都 2・6		
2・5 能楽協会京都支部、理事長不信任案取下げ、本部との和解成立。 京都 2・5		
2・15 京響指揮者カール・チエリウス、第2回京都新聞文化賞受賞。 京都 2・16		
2・22、23 人間座、第1回小劇場公演(労働会館、チェホフ「結婚申込み」)。 京都 2・18		
3・1～12 前進座、40年ぶりに吉井勇作「解脱」復活上演(南座)。 京都 2・24		
3・6～8 先斗町水明会第50回記念公演(同歌舞練場)。 京都 3・7		
3・14～18 第1回漫才顔見世大会(故初代ミス・ワカナ追善)、新生プロと上方演芸初の合同公演(南座)。 松竹70年史、京都 3・17		
3・19 京都の封切館(邦画)入場料金値上げ。 京都 3・19		
3・21 故井上祥次郎第33回忌追善能、金剛能楽堂に開催(井上嘉久「小鍛冶」ほか)。 京都 3・9		
3・23 祇園会館(祇園石段下)完成記念式、24～30日祇園東新地舞踊会(落成記念公演)。 京都 3・22、27		
3・25 市立音楽短大、音楽形式卒業式初試み。 京都 3・26		
	3・25 京都観世会館(岡崎円勝寺町)新築落成(昭20・4 強制疎開)。25・26日祝賀招待能、28～30日各家流元大家出演記念能。 京都 3・24、26、28	
	3・27 第1回教室能、金剛楽楽堂に開催、能を解剖して演出(主催・謡曲仕舞教室)。 京都 3・17	
	3・29 京都音楽短大教授、安部幸明、32年度芸術選奨文部大臣賞受賞。 京都 3・30	
	3・31 小唄柳派家元2代目披露(祇園会館)。 京都 3・31	
	4・1 京都興行協会(中京区河原町六角下ル)結成(環衛法に基づく興行の経営安定と公衆衛生の向上を目的とする特殊法人)。 京都	
	4・6 芸能神社(車折神社内)鎮座奉祝祭、備中神楽を京で初披露。 京都 4・7	
	4・8 わが国映画産業の創生期からの物故者追善法要、本圀寺に挙行。 京都 4・8	
	4・21～22 劇団京芸創立10周年記念公演、人形劇を初めて一般公演(祇園会館)。 京都 4・14、23	
	4・27 どうげきベチカ、京都新聞ホールに「オズの魔法つかい」上演(2年ぶり)。 京都 4・28	
	5・1 京洛劇場(新京極)映画から寄席専属館に転向。 京都 5・1	
	5・6 茶道裏千家淡々斎、紫綬褒章受賞祝賀会開催。 京都 5・7	
	5・15 エンパイヤ名画劇場(御池通寺町角)新装開場(邦画2番館)。 京都 5・14	
	5・17 全日本煎茶道連盟主催、全国セン茶大会、黄檗山万福寺に開催。 京都 5・18	
	5・18 若柳流舞踊第1回つくし会(若柳竜二主宰)開催(宮川町歌舞練場)。 京都 5・17	
	5・18～24 凡凡ミュージカル(渋谷天外・笠置シズ子ら)旗上げ公演(南座)。 京都 5・16	
	5・21 京都映画のスト(4・1 経営不振による組合員解雇)、50日ぶりに解決。 京都 5・21	
	5・23 五郎劇、12年ぶり京都公演(祇園会館)。 京都 5・22	
	5・28 第1回京都新研芸妓温習会、先斗町歌舞練場に開催。 京都 5・21	
	5・一 松竹映画「夜の波紋」(祇園が舞台)封切。 京都 5・17	
	5・一 映画独立プロ春秋プロ誕生。 京都 5・29	
	6・1～20 東西合同大歌舞伎(南座第1回)、東京から歌右衛門(6年ぶり)・友右衛門・中車ら、関西から寿海・吉三郎・霞山ら出演。 京都 6・4、10	

参	考	日	本
		1・一	国立劇場の建設敷地として、パレスハイツ内定。
		2・2	富崎春昇没明13生、77歳、地唄。
		3・15	久保栄自殺(明33生、57歳)。昭36・11・25～昭38・4・10《久保栄全集》(8巻、三一書房)。
		4・10	第1回大阪国際フェスティバル開催。ニューヨーク=シティ=バレエ・ザルツブルク人形劇・レーニンград交響楽団(Vc.ロストロポーヴィッチ)・アマデウス弦楽四重奏団・ピアス・レディングとピエット・カサド・四天王寺舞楽など(～5・10)。
		4・一	大阪歌舞伎座、新国劇公演で閉場。10・30難波駅前の新歌舞伎座開場式。
		10・28	舞台美術家協会発足(会長伊藤熹朔)。
		11・15	《戦艦ポチョムキン》上映促進の会結成、記念試写会。以後、各地で自主上映。昭42・10・4 ATGで一般公開。
		12・5	モスクワ芸術座、《桜の園》<どん底>など上演(新橋演舞場、～12・12)。
		12・16	三好十郎没(明35生、56歳)。
		この年	▷ 中国・ソ連との文化交流さかん。3月松山バレエ団訪中、4月青野季吉ら・淡路人形一座訪ソ、中国歌舞団来日、6月花柳徳兵衛ら舞踊団訪中等。

京	都	府
6・15 京都演劇研究会、発表公演（北野会館衣笠演技サークル参加）。 京都 6・13		10・27 琴と管弦楽による演奏会(弥栄会館)、合同独奏須山知行・中島誓子、管弦楽関西交響楽団。 京都 10・21
6・18～25 石井みどり舞踊団京都初公演（祇園会館）。 京都 6・21		11・1～7 いけばな造型展、紫紅社同人・市役所前広場に野外展開催。 京都年鑑 昭33
6・21、22 京都職場自立劇団コンクール、労働会館に開催。 京都 5・20		11・3 豊竹山城少掾（芸術院会員、本名金杉弥太郎）、文化功労者受賞。 京都年鑑 昭38
6・一 京都労基局、芸妓に月2回休暇を与えることを通告。祇園甲部組合実施。 京都 6・13		11・5 「炎上」(大映)、第5回市民映画祭最優秀映画賞受賞。 京都 10・18
7・4～7 東京漫才顔見世大会、東京漫才研究会関西初の大会出演（南座、33人）。 京都 7・4		11・14 華道松月堂古流家元植松雅俊没。 京都年鑑 昭35
7・10～17 文楽人形浄るり因会・三和会、10年ぶりの合同京都初公演（南座）。 京都 7・10		11・22 梅若50年祭記念能（観世会館、実翁を迎えて）。 京都 11・25
7・16 京都・パリ両市友情盟約締結記念シャソンコンクール（円山音楽堂）。 京都 7・17		11・23 若柳吉千歳、第1回千歳会開催（北野会館）。 京都 11・21
7・17 祇園祭山鉾巡行、一里塚の儀（松原中之町）を新コース御池通富小路に復活。 京都 7・16		11・26、27 京響・二期会共演による「フィガロの結婚」、京都で初めての芸術祭主催公演（弥栄会館）。 京都 11・17、24
7・31 ジョイント・コンサート(京都出身若手ソリストによる)、円山音楽堂に開催。 京都 7・27		11・一 職場演劇コンクール（祇園会館）で榎藤製作所の「あかん奴」、最優秀賞受賞。 京都年鑑 昭35
7・一 昨年復活の祇園芸妓試験、女紅場学園規則改正のため中止。 京都 7・11		12・1～26 吉例顔見世興行（南座）、関西寿海・雁治郎・扇雀ほか、東京猿之助・時蔵・芝雀・友右衛門ほか、「合邦」「石切梶原」「頼朝の死」など。 京都 11・28、12・1
8・9 京都観光連盟、大文字おどりと大文字音頭振付発表。13日、大文字前夜祭（円山音楽堂）に初公開。 京都 8・10		12・11 国際文化観光会館（左京区岡崎、6角型大ホール2,500席、長方形小ホール1,200席）起工式。 京都 12・11
9・3 京都市少年合唱団・豊園校に結成式（全国初の公立少年合唱団）。 京都 8・23、9・4		12・24 開局7周年記念ラジオ京都まつり（弥栄会館、漫才、歌謡）。 京都 12・23
9・13 観世会、市教委と提携して市内中・高校生を対象に能楽教室開催。 京都年鑑 昭35、京都 8・11		この年
9・23 第1回京都観世能、京都観世会館に開催、東京より久太郎・鏡之丞・六郎・元昭ら来演東西名人顔合せ（「道成寺」「松風」など）。 京都年鑑 昭35、京都 9・5、14		▷ 京都市文化局、市内各区に音楽を中心に文化組織を結成してゆく構想を発表。 京都 6・5
9・一 長唄2世今藤長十郎（長裁）第13回追善会（南座）、長十郎によって開催。 京都年鑑 昭35		▷ 京都能楽会、能楽師の映画出演ブームおこる。 京都 11・1
10・13 義満500年祭足利能、観世・金剛2家元が出演、京都能楽会後援（観世会館）。 京都 7・7		▷ 落語、山遊亭金太郎（北桑田郡京北町出身）真打ちに昇進、2代目桂小南襲名（本名谷田金次郎）。 京都 43・2・29
10・17～28 前進座、「象引」復活上演、「法成寺」「土族の商法」京都初演の3作品上演（南座）。 京都 10・14		▷ 華道京展10周年展（丸物）、審査制を廃止、自由な発表の場となる。 京都年鑑 昭35
10・20 城南宮秋祭ミコシかつぎ乱斗事件。 京都年鑑 昭35		▷ 青山和子（京都市出身）コロムビア歌謡コンクール京滋予選で1位、全国大会に優勝、昭34「さみしい花」でデビュー。 京都 40・6・17
10・25、26 京都小唄連盟（柳・春日・里園・蓼・寿喜本・和敬・堀）結成、第1回小唄大会（祇園会館）。 京都 7・26		

参	考	日	本

昭34(1959)年

京 都 府	京 都 府
1・9 地方新聞映画記者会選定第4回ブロンズ賞、今年より主演女優、助演男優、女優の三賞新設、いずれも京都出身俳優受賞(山本富士子・中村雁治郎・団令子)、24日授賞式。 京都 1・9	4・18 伏見稲荷大社神幸祭、宮司退陣を要求する氏子側の結束で、大社はじまって以来のミコシのない祭典となる。 京都 4・18
1・31 京洛劇場、寄席興行打切り、21日富貴座ストリップ劇場に転向、京都に寄席常設劇場がなくなる。 京都 1・17	4・21 常盤津、文字太夫を中心に在洛10師匠により青風会結成、第1回公演(南座会館)。 京都 4・19
1・一 大阪国税局管内興行成績、長年トップの南座顔見世、大阪新歌舞伎座こけらおとし東西合同歌舞伎に1位をゆずる(顔見世、49,649千円、東西合同歌舞伎82,192千円)。 京都 1・26	5・2、3 第5回全京都洋舞公演、同会はじまって以来の参加(26団体)で大盛況(祇園会館)。 京都 5・3
1・一 東映京都撮映所、テレビとの協力体制を目的に企画集団を結成。 京都 1・20	5・12 裏千家家元、訪欧(7・14帰洛)。 京都年鑑 昭35
2・15 小唄柳派柳師会第1回研究発表会(八坂クラブ)。 京都 2・15	5・15 葵祭行列、6年ぶりに葵橋を渡る。 京都 5・15
2・21、22 京都観世会館落成1周年記念能(嘉久「鉢木」など)。 京都 2・24	5・17 尺八京都琴古流幹部会結成(事務所左京区田中上柳町5)。 京都 5・18
2・22 青雲会(金剛流)発展的解消、青年会能結成、旗上げ公演(金剛能楽堂、「東北」ほか)。 京都 2・16	5・30 千鳥会囃子大会、戦前の千鳥会の再興(観世会館)。 京都 5・29
2・一 市建設局、船岡山中腹に野外音楽堂(13,00人)新設着工。 京都 1・15	5・30 箏曲優美会10周年記念演奏会(八坂クラブ、生山元子・堀正実ら)。 京都 5・29
2・一 京都洋舞協議会結成(京都洋舞連盟、キョートバレエシアター大同団結、31団体加盟)。 京都年鑑 昭35	5・一 常盤津清三郎、文右衛門と改名披露(祇園会館)。 京都年鑑 昭35
2・一 京都興行協会興行集計を中止(東映の入場者数、興行収入発表中止を機会に)。 同上	6・1~3 京都能楽会主催京都新能、10周年記念(平安神宮)。 同上
3・7 文化団体懇話会発会式(春日小学校)文芸・音楽・美術・舞踊・邦楽・映画・演劇・伝統芸術・華・茶道など800団体(発起人真下五一)。 同上	6・2 表千家新設増築完工式。 同上
3・14 皇太子結婚記念雅楽公演(円山音楽堂、平安雅楽会出演)。 京都 4・11、京都年鑑 昭35	6・3~22 関西歌舞伎花梅会、京都初公演(南座、寿海・仁左衛門・又一郎ら)。 京都 6・3
3・14 京都市少年合唱団第1回発表会(昭33・9結成)市教委主催、祇園会館、団員116人。 京都 3・15	6・13、14 全国宝生流第6回学生能(観世会館)。 京都 6・12
3・15~22 文楽座人形浄瑠璃引越し興行(南座)芸術院会員、重要無形文化財豊竹山城少掾、引退披露「良弁杉」、因・三和会総出演。 京都 3・12	6・17~19 寄席のない京都(1・31以来)でお笑い京都寄席(祇園会館)。 京都 5・30
3・26 京都洋舞協議会、発足第1回バレエ小劇場(祇園会館)。 京都 3・13	6・18 池坊学園、新本館完工式、記念池坊流華道全国選抜秀作展。 京都 6・16
3・28 文化財保護法の一部改正により祇園祭、記録作成の無形民俗資料に選定。 祇園祭	6・27 京都名流能(京都新聞80周年記念事業)、在洛2流の名人総出演(観世会館、「大原御幸」「正尊」など)。 京都 6・27
4・6~7 浩宮誕生祝賀記念大茶会(日経新聞主催、京都御所、3家元)。 京都年鑑 昭36	6・一 邦楽むつみ会発足(清元初寿郎・常盤津文之助・杵屋勝滉次結束)。 京都年鑑 昭35
4・8 大藏流狂言、茂山千五郎、第3回京都新聞文化賞受賞。 京都 4・3	7・19 京都ジュニアオーケストラ(団員130名)第1回発表会(円山音楽堂)。 京都 7・20
	8・8 京都市、音楽の町をめざし崇仁・養正両吹奏楽団に楽器を無償貸与。 市民新聞 61
	8・一 劇団京芸久しぶりに東京公演「西陣のうた」(改正作)上演(砂防経)。 京都年鑑 昭35
	8・一 青年演劇府下コンクール(大内小)、峰山青年団第1位受賞。 同上
	10・3~17 今日劇場(仁左衛門・吉三郎・万代峰子・山口幸生ら)旗上げ公演(南座)。 京都 9・29

京 都 府	日 本
10・17 全京都洋舞協議会、初の合同バレエ公演(弥栄会館、19団体、400人)。 京都 10・19	1・6 観世華雪没明17生、74歳)。
11・3、22 豊星会創立30周年祝賀大会(金剛能楽堂)珍しい婦人のシテで「道成寺」。 京都 10・20	1・15 <人間の条件>第1部(松竹・にんじんプロ、小林正樹監督、仲代達矢ら出演)封切(全5部、~昭36・1・28)。
11・7 能狂言界精鋭30余人「曾我兄弟・富士の夜襲全3場」、劇的構成による型破りの新構成(金剛能楽堂)。 京都 10・17	1・一 豊竹山城少掾引退披露、文楽合同公演(文楽座。2月、新橋演舞場)。
11・15 日本箏曲連盟主催、現代邦楽(祇園会館)等三弦、尺八、洋雅楽、453人。 京都 11・13	2・一 北条秀司<松川事件>初演(明治座、新国劇)。
11・18 第1回近畿北陸ブロック民俗舞踊大会(祇甲歌舞練場)、「壬生狂言」など。 京都 11・19	3・29 <キクとイサム>(大東映画、今井正監督、北林谷栄・高橋エミ主演)封切。
11・27、28 京舞(井上八千代ら200余人)、6年ぶり東京公演(歌舞伎座)。 京都年鑑 昭36、京都 9・15	4・5 ストラヴィンスキー来日(5・1、5・3、5・7 N響を指揮、日比谷)。
11・一 日本電波映画発足(柔道もので全盛)、昭38・6本社建設(右京区太秦井戸ヶ尻町)。 京都 42・1・17	4・10 第2回大阪国際フェスティバル開幕(ウィーン国立歌劇団の<ドン=ジョヴァンニ>・アルマ=トリオ・レグーレス・セゴヴィア・プレヴィタター他、~5・10)。
12・1~26 顔見世、松竹の経営になって55回、幸四郎(7年ぶり)・猿之助・中車・芝雀に寿海以下花梅会オールメンバー、戦後最高の豪華舞台、「熊谷陣屋」「幡随院長兵衛」「御浜御殿」など。 京都年鑑 昭36、京都 12・1	4・14 新協劇団と中芸の合同した(1・15)東京芸術座第1回公演、村山知義<終末の刻>上演(読売ホール、~4・19)。
12・1~5 京都新劇団共同公演(祇園会館)京芸スタジオ(1、2日)、くるみ座(3日)、人間座(4、5日)。 京都 12・1	6・4 土方与志没(明13生、61歳)。
12・10 市川寿海、芸術院新会員に決定。 京都 12・11	8・16 2世梅若実没(明12生、81歳)。
12・12 新作狂言発表会(NHK主催、観世会館)、平岩弓枝「雪まろげ」片山博太郎・茂山七五三・千之丞・万代峯子ら。 京都年鑑 昭36、京都 12・9	9・26 ソヴィエトのモイセーエフ舞踊団公演(新宿コマ劇場、~10・4)。
	10・5 菊田一夫<がめつい奴>初演(芸術座、東宝現代劇、三益愛子ら出演、~昭35・7・17、270日間のロングラン)。
	10・15 東京混声合唱団<合唱の歴史>連続演奏会第1夜(指揮田中信昭)。
	10・28 ウィーン=フィルハーモニー交響楽団演奏会(カラヤン指揮、日比谷)。
	11・28 三善晃の音楽詩劇<オンディーヌ>放送初演(山本安英ほか、昭35・9・27イタリア賞受賞)。
この年	
> 印度の日本大使館に茶席完工、表・裏千家から代表渡印。 京都年鑑 昭35	
> 京都能楽界、創立20周年。 同上	
この年ごろ	
> 北川鉄夫、京都労演機関紙に「私の京都新劇外史」連載、京都新劇史の輪郭をまとめる。 同上	

京	都	府
1・11 10周年を迎えた児童劇団(のびる劇団、ゆりかご劇団など8劇団)記念発表会(華頂会館)。 京都 1・11		6・26 京都会館完成記念邦楽舞踊大会(全日本邦楽舞踊大会主催)、若柳吉世・若柳芳次郎・大谷友右衛門ら。 京都 6・22
1・一 伝統芸能「花笠踊」(左京区久多町)保存会発足。 京都 1・18		6・一 京都在住の作曲家、高橋半・中瀬古和・網代栄三ら中心に「創(つく)る会」結成(事務所右京区宇多野馬場町1ノ1)。 京都 5・24
3・1~8 吉田難波掾、文化功労賞受賞記念因会・三和会合同公演(南座)、「冥途の飛脚」「酒屋」など。 京都年鑑 昭36、京都 3・1		6・一 薪能で池坊華道研究所のオブジェ「半部・立華供養」、観世・金春二流合同「蟬丸」が能楽協会本部、異流合同公演について難色したが、今回のみに許可。 京都年鑑 昭37
3・2 京都の雅楽会(11団体)結束して雅楽連盟結成。 京都 3・1		7・1 京都勤労者映画協議会発足。 ⁽¹⁾ 京都年鑑 昭36
3・5 京都出身のジャズシンガー中島潤、京都初のリサイタル(弥栄会館)。 京都 3・4		7・1~10 前進座創立30周年記念公演(南座)、芳三郎・翫右衛門ら、「おこまさん」など。 京都年鑑 昭36、京都 6・23
3・24~27 阿吽(あうん)の会第1回展(華道在洛家元2世によるいけばな作家集団)。 京都年鑑 昭36		7・23 京都市出身テナー歌手藤原薫第1回独唱会(京都会館)。 京都 7・16
3・25 歌舞伎、市川寿海、重要無形文化財保持者に指定。 京都 3・24		7・一 大阪・京都演劇記者会統一。 京都年鑑 昭36
3・一 劇団トロイカ、初の児童劇、木下順二「彦市はなし」公演(有隣校)。 京都 3・14		8・7、8 西日本児童演劇協議会第2回総会(宇多野ユースホステル)、地元から京芸など参加。 京都 8・2
4・1 京都映画友の会設立、会員に入場料割り引き、機関紙「映友」発行。 京都年鑑 昭36、京都 4・2		8・28 日本箏曲会連盟主催、箏曲コンクール(八坂クラブ)。 京都 8・27
4・16 京都無形文化財鑑賞会(会長清岡長言)結成、18日より連日、京舞・赦免地踊りなどを観光客対象に披露(京聯ビル)。 京都 4・8		9・12 ラジオ京都、小唄の四季に寿美本・堀の2派合同出演。 京都 9・8
4・17 船岡公園音楽堂日曜コンサート開始、(初会は吹奏楽大会)。 京都 4・9		9・25 第1回オール京都高校軽音楽カーニバル(同連盟主催、祇園会館)。 京都 9・20
4・29 京都会館こけら落とし、29日京響シンフォニーの夕べ~5・9 ポストン交響楽団演奏会まで、演劇、踊りなど18種、23ステージ。 京都会館5年のあゆみ、京都 4・3		10・17 歌舞伎俳優中村富十郎(本名渡辺亀蔵)没、宇都市で巡行中。 京都 10・17、京都年鑑 昭36
4・一 京舞井上流4世井上八千代の半生を描いた「京舞」(北条秀司作・演出)、新派4月公演(東京明治座、水谷八重子ら)。 京都 4・13		10・23、24 文楽人形浄瑠璃特別引越興行(南座)、吉田難波掾ほか総出演「一谷嫩記」ほか。 京都 10・7
4・一 劇団京芸人形劇班、人形劇団京芸として独立。 劇団京芸15年の歩み		10・一 観世流、片山博通、「嵯峨の雨」(吉井勇作、井上流舞踏台本)を、12月、翌年3月の3回にわけて舞囃子として上演。 京都年鑑 昭36
5・13 裏千家宗興若宗匠夫妻、日米修好百年祭茶道使節として訪米、6・23帰国。 京都年鑑 昭36		11・19 歌人、吉井勇没(74歳)、東京出身、戦後京都に住い、都おどりの作詞をつづけた。 京都年鑑 昭37
5・22 関西芸術座による「渦」(小堀鉄男作、山城高校事件を劇化)京都初公演(弥栄会館)。 京都 5・21		11・23 100年以上上演されたことのない「泰山府君」、金剛巖・豊島弥左衛門によって再発掘(金剛能楽堂)。 京都 10・27、京都年鑑 昭38
5・29 能・蘭の剛吟(二段下げ)、松寿社大会(河村能舞台)で復活披露。 京都 5・25		11・一 恒例の職場演劇祭、今年よりコンクール形式を廃止。 京都年鑑 昭36
5・一 松竹新社長大谷博(城戸社長辞任)京都撮影所を時代劇1本にする方針を発表。 京都 5・3		12・1 吉例顔見世(南座)、勘三郎・歌右衛門・中車らに花梢会の寿海・仁左衛門・延二郎ら「助六」「道成寺」など。 京都 11・2
6・20~7・5 日米修好100年記念シカゴ国際貿易博、京舞子の振り袖使節(10人)、京舞妓好評。 京都年鑑 昭36		

参	考	日	本
(1)	職場・地域を基盤として京都労映、京都映サが活躍を続けてきたが、昭34・10 税務当局から前売り引換券制度の禁止を通告され、興行協会が京都映画友の会を設立して割り引き入場を始めたのに対抗、組織の充実をはかるため昭35・7・1をも	2・6	前進座訪中公演に出発。〈俊寛〉〈鳴神〉ほか上演。4・6 帰国。
	対抗、組織の充実をはかるため昭35・7・1をもって統一、京都勤労者映画協議会(会長高松敏雄)としてスタート、山宣を映画化する独立プロ作品「武器なき闘い」(山本薩夫監督)には、12万人の会員を動員して協力した。 京都年鑑 昭36	3・30	演劇博物館編『演劇百科大事典』(〜昭37・5・30、6巻、平凡社)。
		4・6	第3回大阪国際フェスティバル開幕(ミュンシュとポストン交響楽団・パガニーニ弦楽四重奏団・チェコ国立室内オーケストラ・テートル=ド=フランス他、〜5・8)。
		5・8	4世鶴沢清六没(明22生、71歳、文楽三味線)。
		5・19	安保約条強行採決を機に文学者・演劇人などの反対運動たかまる(文芸家協会・日本ペンクラブ・安保阻止新劇人会議・民主主義を守る建築会議・民主主義を守る音楽家の会・新日本文学会・日本文学協会・近代文学同人・若人日本の会・現代詩の会・現代歌人協会有志など声明・デモを行う、〜6月)。
		5・21	チィイコフスキー記念東京バレエ学校開設(校長牛山充)。ソ連ポリショイ劇場付属バレエ学校と提携。
		6・1	プロデューサー=システムにより福田恒存訳・演出〈オセロー〉上演(松本幸四郎・森雅之ら出演、産経ホール、〜6・19)。
		6・3	〈青春残酷物語〉(松竹、大島渚監督)封切、以後7月くろくでなし〉(吉田喜重)、8月く乾いた湖〉(篠田正浩)、10月く日本の夜と霧〉(大島、4日間で上映打ち切り)など日本の新しい波と呼ばれる作品封切。
		6・4	ソ連国立レニングラードバレエ団初公演(東京宝塚劇場)。
		6・20	映連5社、新東宝作品をテレビへ売却防止のため買いとる。
		8・6	常磐津文字翁〔3世文字兵衛〕没(明21生、71歳、三味線)。
		9・12	訪中新劇団(俳優座・文学座・民芸・ぶどうの会・東京芸術座)出発、〈夕鶴〉〈女の一生〉〈死んだ海〉など上演。11・8 帰国。
		12・5	イスラエル=フィルハーモニー交響楽団演奏会(ジュリアーニ指揮、日比谷)。
		この年	
		▷	製作本数・映画館数ピークに達する(548本・7457館)。
		▷	この頃渋谷天外・藤山寛美らの松竹新喜劇人気をよぶ、長沖一・秋田実・花登筐ら放送舞台の作者として活躍。

京	都	府
1・2～26 松竹新喜劇(南座)。京都 1・1		4・1～5・18 都おどり(吉井勇遺作「京舞扇八景」、祇甲歌舞練場、本年は東西本願寺大遠忌に因む場面もあり、御遠忌おどりととも呼ばれる)。京都 4・1～19
1・3～6 前進座公演「毛抜」「鼠小僧次郎吉」、(京都会館)。会館5年のあゆみ		4・1 祇園甲部所有の弥栄会館は昭28・1以来松竹と共同経営のところ、契約期間切れとなり、本日から祇甲が運営。京都 4・1
1・18 観光映画「京都」(16ミリ、カラー、福原健司製作)発表会(関電ホール)。10日ベルギーブリュッセルで開催の第11回国際観光民俗映画コンクール記録映画部門でアカデミー賞(最高賞)を受ける。京都 1・18、10・21		4・2 土曜会箏曲合奏団京都公演(京都会館)。会館5年のあゆみ
1・30 京都市民劇場、くるみ座公演(「呉王夫差」、京都会館)。会館5年のあゆみ		4・5 井上嘉祥閣(能舞台)落成祝賀会。京都 3・31
1・一 京都少年合唱団、全国で初めて器楽を加えて編成がえ。京都 1・4		4・8～11 文楽座人形浄瑠璃(松太夫改め三代竹本春子太夫襲名披露、南座)。京都 4・1、5・11
1・一 映画評論家清水光没(58歳)。京都年鑑 昭37		4・9 観風会結成旗上げ公演(観世会館満3年を記念し、観世流につどう社友で結成のいわば素人名人観世能)。京都 4・5
2・1～26 大江美智子一座(南座)。京都 1・18		4・15 有名無実化していた金剛流青年会能復活第1回公演(金剛能楽堂)。京都 4・8、18
2・3 東映、5月から第二東映をニュー東映と改称。		4・10、13 第1回能楽スクール開催(謡曲仕舞の基本を3カ月教習させる)。京都 4・10
2・8、9 25周年記念文学座公演(「女の一生」、京都会館)。会館5年のあゆみ		4・15 全京都邦楽演奏会(京都会館)。会館5年のあゆみ
2・18、19 杵屋君繁師籍40年記念長唄はやし名流舞踊会(京都会館・祇甲歌舞練場)。京都 2・20		4・17 劇団京芸第4回後援会例会(「暗い夜のしるし」京都会館)。同上
2・18 松竹座、洋画選択に転向。京都座がこれにかわって松竹封切館となる。京都 2・1		4・25 劇団仲間公演、日本残酷物語「村岡伊平治伝」、(京都会館)。同上
2・26 京都総合劇場子供劇場第1回公演(子供のためのミュージカルプレー「祇園ばやしがコンチキチン」、京都会館)。京都 2・23		4・30 榊原千枝子舞踊研究所創立15周年東洋舞踊公演(京都会館)。同上
2・一 京都労音、この月から例会をA(クラシック)・B(軽音楽)二系列とする。京都 1・28		5・1、2 東映京撮の俳優連による演技座第1回公演(「血笑記」、京都会館)。同上
3・1 京都富士サウンドクラブ創立(小型映画トーキー同好会・中京区六角新京極東入ル)。京都年鑑		5・1～24 曾我廼家十吾家庭劇(南座)。京都 4・28
3・1 京都芸術座、法然上人750年大遠忌記念「法然上人劇」公演(祇園会館)。京都 3・4		5・5 藤森神社の駈馬神事中止(前年の見物中のけが人への補償問題をめぐり神社・氏子総代・駈馬世話係の話合いがまとまらぬことに加わえ、資金難・乗手不足も一因)。京都 5・2
3・5 梅若六郎舞台生活50年記念独演五番能(観世会館)。京都 3・7		5・7 市民合同オーケストラの夕(京都オーケストラ連盟、京都会館)。会館5年のあゆみ
3・8 35年度文部省芸術選奨きまる(京都からは京響、林屋辰三郎、竹沢弥七)。京都 3・12		5・15 沖縄島袋光裕琉球舞踊研究所の研究生による琉球舞踊の会開催(金剛能楽堂)。京都 5・16
3・22～29 劇団民芸公演(アーサー・ミラー作「橋からの眺め」京都会館)。会館5年のあゆみ		5・16 喜多村緑郎没(芸術院会員、人間国宝指定、89歳)。同上
3・29 関西新劇人の会京都部会、シュプレヒコール「安保阻止のたたかひの記録」を製作。京都年鑑 昭37		5・23 能楽協会、京都能楽協会が能楽協会に相談なくきめた金春・観世二流合同による薪能(6・1、2)の「蟬丸」は能の伝統をけがすと申し入れ。30日能楽協会、今回限りとして認め、騒ぎおさまる。片山博通、能楽協会京都支部長を辞任)。京都 5・23、30
3・30 宮内庁雅楽、京都会館で公開演奏(地方公開は初めて)。京都 3・24		
3・29 重要無形文化財保持者(人間国宝)指定内定、31日正式決定(京都府からは一絃琴の倉知志ん・平野ヨシ、八雲琴の田中沢二)。京都 3・30		

参	考	日	本
		1・8	アルプーズフ<イルクーツク物語>初演(砂防会館ホール、民芸、～1・24)。
		1・12	ぶどうの会、訪中を機に分裂。
		3・1	8世松本幸四郎・染五郎・万之助・芝鶴・中車らにより東宝劇団結成。
		4・13	第4回大阪国際フェスティバル開幕(ゲヴェントハウス管弦楽団・スターン・ロイヤル=バレエ団ほか、～5・6)。
		4・17	東京世界音楽祭開幕(文化自由会議など主催の4・18～4・22東西音楽交流会議の一環。ニューヨーク=フィル・ジュリアード弦楽四重奏団ほか、～5・6)。
		5・16	喜多村緑郎没(明4生、89歳)。
		6・14	新東宝、映画製作中止を決定。
		6・24	2世市川猿之助・6世中村歌右衛門ら歌舞伎劇団、訪ソ公演に出発。<鳴神><俊寛>など上演。8・11帰国。
		9・1	石川淳<おまへの敵はおまへだ>初演(俳優座、～9・29)。
		10・20	菊田一夫脚色<放浪記>上演(芸術座、東宝現代劇、森光子主演、～12・28)。
		10・20	<夜と霧>(仏)封切(税関審査により一部カットされ、問題となる)。
		11・4	7世坂東三津五郎没(明15生、79歳)。
		この年	▷ ジャズ演奏家の来日さかん。5月モダン=ジャズ=カルテットなど。

京	都	府
5・25、26 劇団民芸公演(「さじきっぱら」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ		8・1～3 納涼能楽の夕(在洛観世オール出演、円山音楽堂)。 京都 7・27
5・27 東映、宮本武蔵封切(内田吐夢監督)。 東映10年史		8・2～26 鈴鳳劇大江美智子一座公演(南座)。 京都 8・6
5・27、28 チェコスロヴァキア文化使節演奏会(京都都会館)。 同上		8・3 新国劇青蛙会第1回京都公演(「国定忠治」、京都都会館)。 京都 8・4
5・31 京響創立5周年記念演奏会(常任指揮者チェリウス送別演奏会、京都都会館)。 京都 6・1、2		8・24 劇団ぶどうの会公演(「夕鶴」「おんによう盛衰記」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ
6・2 親鸞聖人七百回忌記念学生音楽法要(西本願寺会館)。 京都 6・3		9・2、10、16 くるみ座小さい劇場公演(「三人の盗賊」、京都毎日ホール)。 京都 9・2
6・3～25 上方歌舞伎中村扇雀公演(南座)。 京都 5・30		9・5 狂言座第1回新作発表会(京都都会館)。 会館5年のあゆみ
6・6 劇団くるみ座15周年記念公演(「オイデブス王」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ		9・5～27 松竹家庭劇強化結成第1回公演(南座)。 京都 8・30
6・9 東映創立10周年記念パーティ(昭26・4発足)。 京都 6・4		9・17 長宗我部はま子バレエ研究所綾部支部。発表大会(綾部市公民館)。 京都 9・16
6・13 京響指揮者チェリウス「サヨナラ市民のつどい」(京響名誉指揮者・市立音大名誉教授の賀称号を送る。21日帰国)。 京都 6・7、19		9・22 関西バレエ団結成記念公演(「白鳥の湖」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ
6・18 日本映画俳優協会京都部創立10周年祝パーティ(京都ホテル)。 京都 6・19		9・28 京響新任指揮者カウフマン初演奏(京響第38回定期演奏会、京都都会館)。 京都 9・29
6・24 長唄作曲家今藤長十郎の第1回今藤研究会。(京都新聞ホール)。 京都 6・23		9・29 臨時劇場園部会館で東京歌舞伎市川市蔵劇団公演中、二階床がくずれ落ち重軽傷者を出す。 同上
6・28、29 一灯園創立30周年記念すわらじ劇団公演(京都都会館)。 京都 6・27		9・一 文部省、9・5付けで芸術祭参加申込みした京都金剛会に対し、「東京都内上演に限る」として参加を断わる。金剛会、伝統ある本拠地での公演の意義は大きく、文部省の態度は文化の中央集権と批判、11・23金剛能楽堂で自主参加公演。 京都 9・23
7・2 観世流井上松声社の若手による能楽および素謡研究会第1回発表会。(嘉祥閣)。 京都 6・22		9・一 広隆寺牛祭り(10・12)は第2室戸台風で境内が被災したため、行列を中止、祈とうだけ行なう。 京都 9・26
7・4～10 劇団青年座公演(「第三の証言」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ		10・上 京大映画部、前衛映画「む」(16ミリ白黒、17巻)クランクアップ。 京都 10・4
7・7～16 ミスワカサ・島ひろしの新劇団松竹とんぼり座結成初公演(南座)。 京都 7・13		10・上 市立音大に演奏用ステージできる。 同上
7・8 京極東宝、70ミリ劇場に転ず。 京都 7・6		10・12、13 文学座創立25周年記念公演(「ジュリアス・シーザー」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ
7・9 吉村孫三郎京都文楽会長就任式。 京都 7・11		10・15 松竹喜劇教室第1回研究発表会(京都毎日ホール)。 京都 10・14
7・16 長宗我部はま子バレエ団創立15周年記念公演(京都都会館)。 同上		10・20、21 筑前琵琶日本旭会全国大会(京都都会館)。 会館5年のあゆみ
7・17 祇園祭山鉾巡行コースを寺町通北上から河原町通北上に変更。 京都 6・24		10・21～23 東・西本願寺、大映映画「釈迦」の一部が史実をゆがめ仏教を冒瀆するとして全国の教区に抗議指令を出す。10・25日本仏教会関西事務局、上映禁止を決議、26日大映に申し入れる。 京都 10・21、23、26
7・18 劇団くるみ座創立15周年記念アンコール公演(「オイディプス王」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ		10・一 表千家同門会20周年記念大茶会。 京都年鑑 昭37
7・19～23 文楽人形浄瑠璃公演(南座)。 京都 7・21		
7・22 劇団京芸公演(「反応工程」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ		
7・23 チャップリン、25年ぶり入洛。 京都年鑑 昭37		

京	都	府	日	本
11・1～24 松竹新喜劇(南座)。 京都 11・1				
11・4 坂東三津五郎没(芸術院会員、無形文化財指定、昭37・9 簗助8代目相続)79歳。 京都 11・6、12・5				
11・5 第8回京都市民映画祭(36年度最優秀映画賞に東映作品「宮本武蔵」、主演男優賞に中村錦之助など選ぶ、京都都会館)。 京都 11・6				
11・6 ウィーン少年合唱団演奏会(京都都会館)。 会館5年のあゆみ				
11・9 青木能舞台落成記念能(中京区両替町二条上ル)。 京都 11・11				
11・13 第1回邦楽のつどい(八坂クラブ)。 京都 11・16				
11・16 関西芸術座公演(「はたらき蜂」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ				
11・23 祇園小唄歌曲碑除幕式(円山公園内、昭5マキノ映画「絵日傘」の主題歌、長田幹彦作詞、佐々紅華作曲)。 京都 11・23				
11・24～30 劇団民芸公演(「火山灰地」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ				
11・26 在洛八派合同小唄大会(京都新聞ホール)。 京都 11・28				
11・29 顔見世歌舞伎俳優あいさつの会(京都国際ホテル)。 京都 11・30				
12・1～26 吉例顔見世(東西歌舞伎顔合せ、関西から市川寿海・片岡仁左衛門・林又一郎ほか坂東簗助、東京から菊五郎劇団の尾上梅幸・松緑)。 京都 12・1				
12・1 京都能楽会、第1回吉井勇賞を受ける。文化団体懇話会賞は京都音楽クラブおよび華道京展運営委員会に授与される。 京都 12・2				
12・4 創作劇場公演(「腐れた空に向けて階段を登れ」、京都都会館)。 会館5年のあゆみ				
12・6 京洛劇場、東映映画封切館として上映開始。 京都 12・1				
12・23 東宝パレス会館(パレス劇場・パレス東宝・パレス名画座)開館(下京区寺町四條下ル阪急乗入れて閉鎖中の旧パレス劇場)。 京都 12・24				
12・24～30 文楽人形、京都のナイトクラブに進出(文楽三和会桐竹紋十郎一門、ナイトクラブベラミに出演、洋楽伴奏により「竹取物語」上演。ナイトクラブショーの行きづまり打開策との評もある)。 京都 12・10				
12・一 記録映画「西陣」完成(京都記録映画を見る会企画、新世界プロダクション製作)。 京都 12・24				
この年 ▷ 映画館の転業兼営ブーム(映画の斜陽化に				

伴ない、京宝劇場は阪急共栄ストア京宝店・囲基センター・ビリヤードなど開設、松竹座は六角通にカレーショップ開設、文化映画劇場は娯楽センターに模様替え、パレス劇場は阪急乗入れて一時閉鎖)。
京都年鑑 昭37、京都 6・10

京	都	府
1・7 能楽協会京都支部結成5周年の演能で、支部として初めて劇場(京都会館)に進出(市民のための能をねらう)。 京都 1・5		3・11 合唱活動を盛んにするための第1回京都会館合唱コンクール(京都会館)。 会館5年のあゆみ
1・14 立命館大学能楽部の敷き舞台落成記念能大会。 京都 1・10		3・16 日本著作権協会(社)、河野観光興行経営のアルサロ「ミス京都」のバンド演奏が無断興行・著作権侵害であるとして京都地検に告訴。京都では初めて。 京都 3・17
1・21 音大第2回オペラ公演(「尼僧アンジェリカ」ほか、京都会館)。 京都 1・20		3・23 八雲琴大岸派5代宗家大岸藤琴没(亀岡市生、昭33無形文化財指定、74歳)。 京都 3・25
1・24 京都喘唱保存会第1回はうたの会。 京都 1・23		3・30 祇園祭山鉦、重要民俗資料に指定される。 京都 3・30
1・26 京都外大劇団ふれえる第1回公演(「うらおもて」、京都会館)。 会館5年のあゆみ		3・30、31 京都新劇団合同公演(京芸・くるみ座・人間座による「変転の時代」、京都会館)。 京都 3・15
1・27 救ライ運動「小島をバラ園にする愛の舞踊会」(小島をバラ園にする会主催、京阪神の芸能人協賛、南座)。 京都 1・22		3・一 ATG(アートシアターギルド)の京都上映館に朝日会館きまる。 京都 3・24
1・28 藤間勘五郎舞踊会(南座)。 京都 1・16		4・一 春のおどり 都おどり 「巴紋都絵姿」 鴨川おどり 「伊勢物語」・「京の庭」 京おどり 「花競京洛膝栗毛」 北野おどり 「北野同流」 京都年鑑 昭38
1・28 カメラ能(演能の撮影会、KCA主催、嘉祥閣、古俗古典を写すシリーズ第1回)。 京都 1・22		4・一 入場料軽減により邦画5社は30~40円入場料金値下げ実施。 同上
1・30 劇団京芸公演(「ロシア問題」、京都会館)。 会館5年のあゆみ		5・17 能楽金春流家元金春光太郎没(奈良県生、75歳)。 同上
1・一 京都労演、この月から毎月例会をひらく(会員約600人)。 京都年鑑 昭38		5・23 祇園祭山鉦29基、文化財保護法による重要民俗資料に指定される。 同上
2・1~20 鈴鳳劇大江美智子一座公演(南座)。 京都 2・1		5・27 阪急地下鉄工事中の四条通で山鉦巡行の安全を期して深夜月鉦の巡行テスト実施。 同上
2・3 人間座公演(「しあわせな人々」、京都会館)。 会館5年のあゆみ		5・一 寄席のなかった京都に吉本の花のれんが復活、花月劇場でふたあけ。 同上
2・10 京都邦舞さーくる結成公演(京都会館)。 京都 2・8		5・一 関西洋画労組結成(メジャー系9社・イタリフィルム・新外映・昭映の関西支社従業員による。これが口火となり全国的に労組結成が促進される)。 同上
2・11、12 劇団くるみ座公演(「リチャード三世」、京都会館)。 会館5年のあゆみ		6・13 祇園祭連合総会、阪急地下鉄工事のため山鉦巡行中止をきめる。(山鉦建て、宵山等は例年どおり行なう)。 同上
2・13~15 谷桃子バレエ団新春特別公演(京都会館)。 同上		6・一 先代井上八千代25回忌。 同上
2・17、18 すわらじ小劇場公演(「トタンの穴は星のよう」ほか、祇園会館)。 京都 1・15		7・18 俳優大河内伝次郎没(福岡県生、64歳)。 同上
2・22~26 文楽人形浄瑠璃公演(南座)。 京都 2・15		9・26 長唄松永4代家元松永同没。 同上
2・23 高山京都市長、京響を編成し、その指揮者にチェリウスら独国人をむかえドイツ音楽紹介・日独文化交流に尽したことにより、西ドイツ政府からドイツ功労大十字章を授与される。 京都 2・19		10・一 東映撮影所の俳優同人グループ「私の会」(代表島義一全員19人)結成、「純益を社会福祉活動に寄贈する(昭38・6・2第1回公演)。 京都 昭38・5・29
2・一 いけ花青甲苑剣流(西山綾子専溪流より分派)。 京展20年の歩み		11・3 京都市PTAコーラス交歓音楽会、本年度で10年目第10回をむかえる。 京都音楽史
3・1~11 前進座公演(松本清張作「無宿人別帳」、南座)。 京都 3・1		
3・8 映演総連松竹労組、定年制5年ひき下げに反対し24時間スト(本日午前0時から。京都では京撮の製作停止、直営の南座・京都座・松竹京映・ピカデリー休館)。 京都 3・8		

参	考	日	本
		1・7 石井漢没(明23生、71歳、舞踊家)。	
		1・25 <老人と鷹>(日本テレビ、ノンフィクション劇場)放映。5・16カンヌ映画祭で大賞。	
		3・5 第21回国際ギタリスト会議(文京公会堂ほか、~3・14。ベーレントら演奏)。	
		4・9 5社長会で各社専属主演スターの他社出演禁止を決定。	
		4・12 第5回大阪国際フェスティバル開幕(コンサートヘボウ管弦楽団・ビルトッオーゾ=ディ=ローマ・コンツェルトハウス弦楽四重奏団・コンディ=フランセーズほか、~5・5)。	
		4・20 日本アート=シアター=ギルド(株)[ATG]発足(上映館は新宿文化など)。	
		5・12 秋田雨雀没(明16生、79歳)。	
		7・10 木下順二<オットーと呼ばれる日本人>初演(東横ホール、民芸、~8・19)。	
		7・21 文楽(三和会と因会合同)、渡米公演に出発。8・25帰国。	
		9・26 読売日響結成披露演奏会(指揮ページ、文化会館、7・3結団式)。	
		12・3 京都市交響楽団・群馬交響楽団・札幌交響楽団、高崎で第1回交歓演奏会。	
		12・5 日本現代音楽協会主催<現代の音楽展昭37>(文化会館小ホール、12・14)。	
		この頃	
		▷ 座頭市・悪名・クレイジー作戦・駅前などのシリーズさかん。	
↗	12・14 上方落語家桂文団治没(84歳)。 京都年鑑 昭39		
	この年		
	▷ ヤサカ会館内にギオンコーナー設置。観光客の古典鑑賞に役立てる。 京都年鑑 昭38		
	▷ 裏千家茶道研究所開設。 淡紅 昭37・2		

京	都	府
2・3 京都市文化団体フェスティバル(京都 会館)。京都 2・4		
2・10 芸能史研究会設立準備委員会(発起人 林屋辰三郎・梅原猛・山本修二、千宗興ら130名。 昭39・4・25第1回大会)。京都 2・11		
2・14 京響、ソビエトのバイオリン奏者 L. コーガン・作曲家兼指揮者ハチャトゥリアンの二 大家の協演による定期演奏会開催。 京都年鑑 昭39		
2・16~25 前進座南座公演。京都 2・1		
2・一 京舞篠塚流再興(5代家元島一綱)。 緑紅叢書 4・8		
2・一 2月の能(2・10杉浦別会能、2・20金 剛定期能、2・23金剛青年能、2・24七宝会例会、 観世定期能)。京都 2・2		
3・2 梅若能(観世会館)。京都 2・25		
3・9 京都労基局、3・3 大阪劇場のブリッ ジ転落で深夜げいこ中の踊子が重軽傷を負った事 件に鑑み、市内6劇場を調査、南座、花月劇場、 祇甲歌舞練場、北野会館の4劇場に改善勧告。 京都 3・9		
3・10 重要無形文化財保持者清元栄寿郎(清 元師匠宮川寿朗)没(58歳)。京都年鑑 昭39		
3・10 京都観世会会長片山博通、神戸湊川神 社能舞台で演能中脳出血で没(後任片山博太郎)。 同上		
3・17 先代金剛巖13回忌追善能(金剛会館、 23年ぶりに「三輪神道」上演)。京都 2・25		
3・一 京都座、ボーリング場に転向のため閉 鎖。松竹70年史		
4・1~11 南座、新国劇(北条秀司作「王 将」など)。京都 3・19		
4・27 八雲琴3代宗家田中緒琴没(無形文化 財保持者、66歳)。京都年鑑 昭39		
4・一 PTAコーラスの発展形態としてOB 団体「マザーズ・コール」左京に組織される。 京都 1・22		
4・一 華道嵯峨流長谷川喜洲渡米、6月まで 北米各地でいけ花デモンストレーション講習をひ らき帰国。京都年鑑 昭39		
4・一 京都市立音楽短期大学に音楽専科設置。 (定員10名、学生定数90名)。同上		
4・一 いづのバレエ発表会、はなやま舞踊 研究所発表会、福本静江バレエ・ピアノ研究発表 会。同上		
4・一 京都府合唱連盟設立。 全日本合唱連盟20年史		
4・一 京都職域軽音楽連盟発足。 京都年鑑 昭39		
	4・一 政府、大阪府、市、NHKにより文楽 協会(財)結成(前夜祭のよる人形遣いによる人形 損壊事件発生)。	
	5・3 劇団雲、弥栄会館で「夏の夜の夢」を 熱演。京都年鑑 昭39	
	5・5 翠成子主催「スタニスラフスキー生誕 百年記念公演」。同上	
	5・26 大映永田社長、京都撮影所を3年以内 に閉鎖(東京に吸収)の構想発表。経費節減の方 策として。京都 5・26	
	5・30 漫才師玉松一郎没(57歳)。 京都年鑑 昭39	
	6・1~25 松蔭改の七代目市川門之助襲名披 露異色合同カブキ。京都 5・29	
	6・2 都山流宗家主催講習会(舞鶴)。 都山流70年史	
	6・10~12 文楽協会誕生記念文楽座公演(祇 園会館)。京都 5・27	
	6・一 薪能で異流合同公演に横ヤリが入り、 出演者は自発的に遠慮。同上	
	7・17 祇園祭、4年ぶりに全山鉦29基が巡行。 保昌山はかつぎ手不足で車輪をつける。同上	
	7・22 小唄柏流家元柏貞子没(63歳)。同上	
	7・一 東宝、千土地興行(株)(新歌舞伎座) と提携、東宝劇団の新歌舞伎座進出成る。(千土 地は松竹から離反)。京都 7・11	
	7~8 地元バレエの宮脇翠ら京都市周辺への き地で「巡回文化のつどい」開催(京都市主催で 継続の方針)。京都年鑑 昭39	
	8・2~25 南座、大江美智子一座公演。 京都 8・1	
	9・1 桐朋学園音楽大学教授森正、はじめて 京都市交響楽団の日本人常任指揮者となる。 京都年鑑 昭40	
	9・1~25 南座、松竹家庭劇公演。 京都 8・29、9・1	
	9・8 梅花能(京都で初の面装束なしの袴能 「野呂」を上演。先代梅若実翁が明治年間はじめ たという)。(観世会館)。京都 8・19	
	9・13 井上定期能(観世会館)。同上	
	9・15 マーゴ・フォンテン・バレエ、京都 会館第一ホールで公演(ノーブル、ルドルフ・マレ エフとの顔合わせは今世紀最高と称される)。 京都年鑑 昭40	
	9・一 京都市主催・京響「土曜コンサート」、 この月で発足以来10年、253回をむかえる。同上	
	10・1~10 南座、前進座公演。京都 10・1	
	9・26 森正、京響就任披露演奏会。 京都 40・6・24	

京	都	府	日	本
10・5 松本後援能(松本泰子演能、観世会 館)。京阪の梅若同門有志賛助出演。 京都 9・16、10・8			1・7 文楽協会設立(4・20~5・7 文楽座で 第1回公演)。昭41・3 渡米公演。	
10・5~30 秋の鴨川おどり(4日前夜祭) (オリジナル「潮の音」「洛秋帖)」。京都 10・5			1・14 芥川比呂志ら文学座を脱退、福田恒存 を中心に劇団雲を結成。3・28~5・19第1回公演 (シェイクスピア<夏の夜の夢>、砂防会館ホー ル)。	
10・13~24 南座、喜劇特別公演。京都 10・1			1・29 牧阿佐美バレエ団、定期公演開始(< 白鳥の湖>、産経ホール、~1・30)。	
10・13 井上門下の松吟社創立40年記念祝賀 能(観世会館)。京都 10・17			3・10 清元栄寿郎没(明37生、58歳)。	
10・13 大江門下黒坂晴夫入門15年記念能(大 江能楽堂)。同上			4・13 第6回大阪国際フェスティバル開幕 (ロンドン交響楽団・ザグレブ室内合奏団・カサ ドゥ・パリオオペラ座バレエ団など、~5・6)。	
10・20 金剛凌雲社大会能(金剛能楽堂)。 同上			5・6 久保田万太郎没(明22生、73歳)。	
10・20、27 秋の記念能(世阿弥生誕600年) (観世会館)(埋もれていた名曲を上演、「松浦佐 用姫)」。京都 10・14			6・1 劇団雲、新宿文化劇場で映画終了後、 アルビー<動物園物語>上演(~6・9)。この頃、 小劇場運動始まる。	
10・22 歌舞伎の市川寿海丈に文化功労章授章 と決定。京都年鑑 昭40			6・11 長谷川伸没(明17生、79歳)。	
10~11 東京浅草の浅香光代一座京都初公演 (花月劇場)。京都 10・5			6・12 歌舞伎俳優市川猿翁丈没(日本芸術 院会員、日本俳優協会理事長、75歳)。	
11・1~24 南座、笑いの王国公演。 京都 10・30			9・1 創価学会、鑑賞団体民主音楽協会〔民 音〕結成を決定。10・18記念演奏会。	
11・6 京都市立音大弦楽合奏団デビュー。 音大紀要 12			9・1 東宝ミュージカル、<マイ・フェア・ レディ>上演(東京宝塚劇場、江利チエミ・高島 忠夫ら、~9・29)。	
11・9 杉浦定期能(観世会館)。			9・4 サルトル<狂気と天才>初演(東横ホ ール、民芸、~9・26)。	
11・9、16、23 金剛流が京都国際ホテル庭園 で「ホテル能」を試みる。外人に伝統芸術紹介。 京都 11・5			11・16 <にっぽん昆虫記>(日活、今村昌平 監督、左幸子主演)封切。	
11・14 常盤津文系没(84歳)。京都年鑑 昭40			11・22 ショー<聖女ジャンヌ=ダーク>上演 (都市センターホール、雲、芦田今日子ら、~12 ・14)。	
11・17 河村秋の大会(河村能舞台)。 京都 11・5			11・25 三島由紀夫、<喜びの琴>(《文芸》 昭39・2月号)上演中止問題で文学座を脱退、の ち矢代静一・賀原夏子らも退座。	
11・17 豊島弥左エ門後援能第1回公演。 (金剛能楽堂)。京都 11・4			12・12 小津安二郎没(明36生、60歳)。 この年 ▷ 観客数最盛期の半分以下(5億120万人) となる。	
11・19~21 京都文楽協会、「仮名手本忠臣蔵」 公演、昼夜通しの興行でこれまでにない大盛況。 (祇園会館)。京都 10・30、京都年鑑 昭40			▷ 川寿海、芸術院会員に推された中村歌右エ門ら)。 京都 11・12、11・29	
11・20 京都観世会専務理事渡辺源太郎没(53 歳)。京都年鑑 昭40			12・4 京響、京都府会館で開催の第1回小学生 音楽鑑賞教室に出演。市民新聞 98	
11・23 ラジオ京都四条河原町高島屋サテライ トスタジオできる。京都 11・23			12・一 京響恒例の第9シンフォニーの夕べ開 催。京響育ての親カール・チェリウスを指揮者に むかえる。京都年鑑 昭40	
11・26 京都市交響楽団、札幌で開催の文部省 主催芸術祭の三市交響楽団特別演奏会に群馬、札 幌とともに参加。京都年鑑 昭40			12・一 三味線の野沢吉三郎、野沢吉兵衛9世 襲名(朝日座)。 この年 ▷ 京都府演土曜劇場開始(毎日京都支局ホー ル)。 京都年鑑	
11・一 松竹作品・中村登監督「古都」、京都 市映画祭で優秀映画賞を獲得。松竹70年史				
11・一 地元バレエ団を集め、京都市主催で 合同バレエ公演。三木一郎演出「ミカドの上人」 は歌舞伎十八番「鳴神」のバレエ化、力作。 京都年鑑 昭40				
12・1~26 南座吉例顔見世(団十郎、三津五 郎、羽左衛門の三襲名俳優、文化功労章受章の市				

京	都	府
1・1 劇団京都小劇場結成(劇団京芸を脱退した藤圭助・藤田朱実ら5人で)。 プログラム、京都 8・23	で昭45・5まで16本を放送、いずれもメロとよろめき。午後1時台のドラマ視聴率平均20%前後)。 京都昭 43・5・9	
1・15 京響第1回ポップスコンサートを京都公会館第1ホールで開催、好評を博す(ポストン・パリの交響楽団にならい春・夏2回)。 京都年鑑 昭40	5・一 映画館はゴールデンウィークにも不振。 京都年鑑 昭40	
1・一 南座では、家庭劇の曾我廼家十吾一座と高田浩吉の顔合わせ(花柳小菊・北上弥太郎・嵐吉三郎・円山栄子。「白鷺三味線」「寒椿」が評判)。 同上	6・一 文化財保護委員会、伝統芸術保護の主旨から能楽養成に補助金の配分を決める。若手養成に20万円支出。 同上	
2・1 東映京都テレビプロダクション(株)設立(右京区太秦、テレビ映画・番組の製作・販売、タレント提供)。 同上	6・一 長宗我部はま子バレエ団、香港公演。 同上	
2・1~9 前進座南座公演。 京都 1・28	6・一 全日本合唱連第1回合唱祭。 全日本合唱連20年史	
2・12~23 南座、新国劇「真田軍記」(井上靖原作)・「座頭市物語」(子母沢寛原作)。 京都 1・28、京都年鑑 昭40	7・1~5 南座浪曲大会。 京都 6・27	
2・一 西山綾子創流(専慶流)。 京都年鑑 昭39	7・10 祇園ばやし保存会創立。(八坂神社内)。 京都 7・11	
3・一 山一ホール開場(客席332、ピアノ発表会などに利用)。 京都 7・22	7・14、15 音協主催第1回世界ジャズ・フェスティバル、円山音楽堂で開催(スイングジャズの名ドラマー、ジーン・クルーパーなど)。 京都年鑑 昭40、京都 6・27	
3・一 藤間勘五郎舞踊会。 京都年鑑 昭40	7・17 祇園祭山鉦巡行は好天にめぐまれ40万人と空前の人数。 京都年鑑 昭40	
4・1 武者小路千家、茶道文化学院開学。 入学案内、京都年鑑 昭40	7・18~27 引田天功と大魔術団、鉄砲光三郎のうたとお芝居と鉄砲節 7・一 大映公衆の上映系統が日本ドリーム系の京都劇場にうつる。 京都 6・27	
4・25 芸能史研究会(第1回研究会開催。代表者林屋辰三郎、会員全国800人) 京都 4・19	8・14 尾上流家元尾上菊之丞、ハワイに出張中急死(菊之丞は鴨川をどりの振付指導に長年たづさわる)。 京都年鑑 昭40	
4・一 ニューヨークワールドフェア開幕、池坊学園あげて渡米。 京都年鑑 昭40	8・一 風俗営業法改正で18歳以下の舞妓は接客基準によりきびしく制限を受ける。 同上	
4・一 春のおどり 都おどり 「都のおもかげ」 鴨川おどり「万寿と唐糸」・「京の味」 京おどり 「五彩の和」・「京の四季」 同上	9・3~27 南座、松竹新喜劇京都公演。 京都 8・27	
4・一 京都市、音楽大賞を設け、京響のための作品を全国から募集。12・5 第1回音楽大賞発表新人作品の夕(京都公会館第1ホール)。 市民新聞 昭39・4	9・7 裏千家14世淡々齋宗室没、72歳。 京都 9・8、京の茶家	
4・一 京都いけばな協会結成(会長桑原専溪)。 京都年鑑 昭40	9・17 京響、「R・シュトラウス生誕百年記念の夕べ」開催。 京都年鑑 昭40	
5・14~16 文楽協会公演(吉田難波掾追善、祇園会館)。 京都 4・28	9・26 カール・チェリウスを招き、「京響育ての親」歓迎の夕を円山音楽堂に開催。 同上	
5・一 近畿放送改称記念「イタリア民謡祭」 「ラテンフェスティバル」公演。 京都年鑑 昭41	9・一 大谷友右衛門、京屋中村雀右衛門の名跡をつぎ東京歌舞伎座で襲名興行。 同上	
5・一 家庭劇に正司歌江・照江・花江のくかしまし娘>が参加、好評。 京都年鑑 昭40	9・一 松竹新喜劇、株式会社として新発足。 同上	
5・一 くるみ座、田中澄江作「つづみの女」公演、大蔵流狂言の茂山千之丞らも出演し好評。 同上	10・1 京都放送(ラジオ京都)、近畿放送KBS(株)と改称。 京都 9・13	
5・一 関西系テレビに「雪燃え」で15分の帯ドラマ発足(「暖流」「日日の背信」などをはさん	10・5~11・5 鴨川をどり「京の女」 10・7~26 オリンピック東京大会記念都をどり秋の公演(昭3御大典以来30年ぶり)。 京都 10・	
	10・28~11・3 京都御所華道展第1回開催。 京展20年の歩み	

参	考	日	本
		1・1 NHK作曲賞制定(第1回受賞三善晃<ソプラノと管弦楽のための<決闘>)、昭38・8・2放送)。	
		2・6 日生音楽シリーズ第1回公演(ストラヴィンスキー<遊蕩児一代記>ほか上演、~2・17)。	
		2・15 <砂の女>(勅使河原プロ・東宝、勅使河原宏監督、岸田今日子主演)封切。	
		3・3 シェイクスピア作・福田恒存訳、演出<リチャード三世>初演(日生劇場、中村勘三郎ほか、~3・29)。各地でシェイクスピア生誕400年記念行事行われる。	
		3・26 東響、経営難のため解散。3・31 楽団員により再発足。4・15披露演奏会。	
		3・27 民芸、25年ぶりに<夜明け前>上演(都市センターホール、~4・7)。	
		4・4 日生劇場プロデュースの<シラノ=ド=ベルジュラック>上演(松緑ほか、~4・29)。	
		4・11 第7回大阪国際フェスティバル開幕(ソビエト国立交響楽団・シフラ・クリュイタンスとパリ音楽院管弦楽団・ユーゴ国立バレエ団ほか、~5・4)。	
		4・15 NHK、電子音楽室完成。	
		9・3 木下順二<冬の時代>初演(日経ホール、民芸、宇野重吉演出、~9・22)。	
		9・7 ぶどうの会解散。	
		10・1 オリンピック東京大会芸術展示に雅楽・能楽・人形浄瑠璃・歌舞伎・古典舞踊・邦楽・古美術展・近代名作展など行われる(~11月)。	
		10・1 旧作劇映画テレビ上映、NETと大映間に話し合い成立、この日より実施。	
		この年	
		▷ 府教委文化財保護課、文化財映画「丹後風土記(モノクロ、37分、16ミリ)製作。7・1撮影開始。 京都年鑑 昭45	
		▷ くるみ座、テレビ映画に進出(「忍びの者」・「荒野の鷹」「佐々木小次郎」など)出演。 京都 昭40・1・3	
		▷ 国産テレビ映画盛んとなり、京都でも6社にのぼるテレビ・プロダクションが20本以上の連続テレビ映画を茶の間に送る。京都 昭40・1・10	
		▷ 京都女子大音楽科発足。 京都 昭40・6・19	
		▷ いけばな国際性。(ニューヨーク世界博はじめ外国視察・実演旅行のほか国内においても外賓の入浴に際し実演する機会ふえる。 京都年鑑 昭40	
		▷ 松竹京都撮影所、映画製作の合理化をはかるため企業整備にのりだし、200人の配置転換をはかる。 同上	
11・1~24 松竹新喜劇。(南座) 京都 10・29			
11・7~28 劇団京芸公演。(京都毎日ホール、4日間) 京都 10・29			
11・26 35年度芸術祭参加公演の高崎・札幌・京都3市交響楽団特別演奏会。(会場京都) 京都年鑑 昭40			
11・一 第1回京都合唱コンクール開催。 全日本合唱連20年史			
12・1~26 南座顔見世(松竹経営60周年記念、寿海・仁左衛門・雁治郎・又一郎、東京から勘三郎・松緑・梅幸・羽左衛門・扇雀・我童ら。 京都年鑑 昭41、京都 10・12、12・1			
12・27 第13回吉例素人顔見世(南座) 京都年鑑 昭41			
12・一 京都商工会議所ホール開場。(客席数354) 京都 昭41・7・25			

京	都	府
1・2～26 松竹新喜劇南座公演(花登篋の「新地の雀」、館直志作「黄金の庖丁」が評判。京都 1・1		5・10～15 第12回アジア映画祭、(アジア地域8カ国の女優150人参加、京都都会館)。京都 5・1、11・25
1・21～22 人形劇団京芸、創立15周年記念上演(荒木昭夫作「土蜘蛛」。京都 1・19		5・16 関西裏千家学生茶道研究会発足(会長井口海仙)。淡交 昭40・4
1・一 劇団民芸公演(ブレンダン・ベーハン作「人質」、京都労演例会)。京都 1・29		5・21 豊竹山城少掾米寿祝賀文楽公演(千代萩、曾根崎心中など)。京都 5・25、京都年鑑 昭41
2・5 ウラジミール・アシュケナージ・ピアノ演奏会、京都都会館。京都 2・1		5・23 上方舞の篠塚流新家元梅扇の披露舞踊大会(祇甲歌舞練場)。仁左衛門ら賛助出演。京都年鑑 昭41
2・13 歌謡界の人気スターになった青山和子・都はるみ(京都出身)、大阪なんば劇場でレコード大賞・新人賞受賞公演に出演。京都 2・15		5・27～30 片岡仁左衛門南座で初の自主公演「仁左衛門歌舞伎」(「時今也桔梗旗挙」、「さくら時雨」、「一葉とたけくらべ」)。京都年鑑 昭41、京都 5・29
2・20～28 前進座創立35周年公演(南座。「唐茄子屋」・「阿部一族」、河原崎長十郎・中村翫右衛門ら出演)。京都 2・19		5・一 ゴールデン・ウィーク、邦画日活「未成年」・東宝「赤ひげ」、大映「悪名」、東映「にっぽん泥棒物語」。洋画「007」が好評。京都 5・7
2・27 同和会能、金剛巖により「調伏曾我」上演。観世会館。京都 2・16		5・一 大俣太鼓・地頭太鼓、舞鶴市の無形文化財に指定される。京都年鑑 昭45
2・一 京都市文化局と観光局を統合、文化観光局設置(交響楽団、音楽短大、円山公園音楽堂も所管)。京都年鑑 昭41		6・1～2 第16回新能新曲「平安」初上演。京都 5・22
3・19 京都新劇団フェスティバル(劇団京芸「佐渡狐」、人形劇団京芸「みつばちと三匹の子熊、くるみ座「笛」、京都都会館)。京都 2・27		6・1 プロダクション鷹創立(右京区嵯峨)。京都年鑑
3・24 関西常盤津協会13年ぶり京都公演(山一ホール・三世相が全段通し狂言として演奏される)。京都 3・19		6・4 柳家金語楼、南座初出演。京都 6・3
3・25 京都地検、あくどい踊りでストリッパ一初の公判請求。京都 3・26		6・5 第17回京都六花街合同舞踊大会、歌舞練場。島原・「三保の松」・「五色晒」 祇園東部「かさね」・「菊の宴」 上七軒「越後獅子」・「夕月船頭」先斗町「船揃」・「双六」 祇園甲部「廓の賑」 宮川町「吉原雀」・「子宝三番叟」など。京都年鑑 昭41
3・26 能楽金剛流家元はじめ20人が重要無形文化財保持者に認定。 ⁽¹⁾ 同上		6・10～11 すわらじ劇団公演(「奉教人の死」・「どこがちがうねん」京都都会館)。京都 6・7
3・一 京都放送会館完成(鉄筋地下1階地上3階、テレビ・ラジオスタジオなど)。京都年鑑 昭41		6・26 尺八都山流創始70周年記念演奏会(明29流祖中尾都山創流、昭30現在全国30万の会員 京都都会館)。京都 6・21
4・6～11 劇団民芸公演(シヨロホフ作「開かれた処女地」京都都会館)。京都 3・7		6・30 イタリアオペラ来演(フェルッチョ・タリアビー監督、「トスカ」上演、京都都会館)。京都 6・17
4・16～17 劇団京芸公演(「獅子」京都都会館)。京都 3・29		6・一 新劇文楽座公演(「友絵の鼓」京都都会館)。京都 6・23
4・17 日東テレビ映画(株)創立。京都年鑑 昭		6・一 大映は「必要とあれば東京・京都両撮影所従業員1497人の身分を全員契約者に切りかえ、映画製作の合理化をはかる」との構想発表、映画界不況の反映。京都 6・25
4・28 松竹労組、24時間ストに突入(南座は除く)。松竹70年史		7・1～15 七月納涼カブキ(「真景累ヶ淵」尾上菊次郎・嵐吉三郎・中村霞仙ら出演。昭39夏大阪で好評のもの 南座)。京都 6・21、7・5
4・一 春のおどり。 ⁽²⁾ 京都 3・22		7・13～18 劇団民芸公演。(大橋喜一作、宇野重吉演出、「コンペア野郎に夜はない)。京都 7・1、17
5・4 劇団雲公演(シェークスピア作、マイケル・ベントール演出「ロミオとジュリエット」。京都都会館)。京都 5・1		
5・9 仁和寺の華道会館落成。(昭39・7建設開始、2階建延面積825㎡、工費6500万円)。京都 5・7		

参	考	日	本
(1) シテ方	金剛巖一金剛流家元、京都能楽会会長。種田治郎一金剛会会長。今井幾三郎一金剛流。片山博太郎一観世会会長。杉浦義朗一観世流。浦田保嗣一同。林矩玄一同。大江又三郎一同。井上嘉久一能協支部長。	1・6 花柳章太郎没(明27生、70歳)。	
ワキ方	今村知史一福王流。岡治郎右衛門一高安流。	3・20 <東京オリンピック>(東京オリンピック映画協会・東宝、市川崑監督)封切。	
ハヤシ方	森田光春一森田流笛。曾和博朗一幸流小鼓。谷口喜代三一石井流大鼓、同和会理事長。谷口勝三一同。小寺金七一観世流太鼓、能楽養成会教務主任。前川善雄一金春流太鼓。	4・7 ベントール(英)演出の<ロミオとジュリエット>上演(産経ホール、雲、～4・25)。	
狂言方	茂山千五郎一大蔵流。京都新聞文化賞受賞。	4・12 第8回大阪国際フェスティバル開幕(バイエルン放送管弦楽団・アラウ・ロスアンヘレス・ミラノ室内歌劇団・コメディ=フランセーズなど、～5・2)。	
日本能楽会	(3・1発足)加入の135人が人間国宝となり、うち40人(6人は死去)は昭32に指定されているので101人が新たに認定される。このうち20人が一挙京都から選ばれたうらには往時の能楽騒動が功を奏して8年目に関東偏重が改められたとされる。	6・4 ジロドゥ<オンディーヌ>上演(日生劇場、四季～6・29、8・3～8・29)。	
(2) 都おどり	4・1～5・10「美弥古風流」鴨川おどり 4・15～5・20「葛の葉物語」・「鴨川四季」	6・16 映画<黒い雪>(武智鉄二監督>、わいせつ罪容疑で警視庁にフィルム押収(12・25起訴、昭42・7・19無罪判決)。	
鴨川おどり	4・15～5・20「葛の葉物語」・「鴨川四季」	7・30 谷崎潤一郎没(明19生、79歳)。	
北野おどり	4・5～20「万里の嵐」・「舞姿つれづれ草」	8・1 信時潔没明20生、77歳、作曲家)。	
京おどり	4・15～28「歌舞伎物語」	8・31 渡政能楽団出発(アテネなどで公演)。	
(3) 昼の一部	「車曳」・「盛綱陣屋」・「積恋雪関扉」・「吃文」	9・4 スラヴ歌劇団初公演(<ボリス・ゴットフ>ほか、マタチッチ指揮、チャンガロヴィッチほか、文化会館、～10・8)。	
夜の一部	「逆鱗」・「阿古屋」・「土蜘蛛」・「帯屋」	9・28 訪欧歌舞伎団出発(ベルリンなどで公演。11・5帰国)。	
		10・1 東京都交響楽団創立披露公演(文化会館、4・3結団式)。	
		11・10 11世市川團十郎没(明42生、56歳)。	
		11・14 三島由紀夫<サド侯爵夫人>初演(紀伊国屋ホール、NLT、丹阿弥谷津子ら、～11・29)。	
		12・29 山田耕柞没(明19生、79歳)。	

京	都	府
7・13	成人映画に少年の締めだし強化。府警、年齢(18歳未満規制)確認呼びかけ(7・13府児童福祉審議会文化部会は府警の提案により終夜営業をやめてもらいたいと決議。7・14「黒い雪」など上映)。	京都 7・12、13、京都年鑑 昭41
7・22	新国劇南座公演(「慶安の狼」、「越後獅子祭」島田辰巳ほか出演)。	京都 7・3、21
7・28	井上八千代、日本舞踊協会関西支部5周年記念舞踊会で「山姥」を舞う。	京都年鑑 昭41
7・30	裏千家宗匠千宗室、ブラジルのコメンダドールの称号と南十字・文化勲章をうける(11年前サンパウロ400年祭に渡米以来茶道を通じる文化交流に寄与したため、昭39・6同地に茶室を寄贈)。	京都 7・1
7・一	京舞の文献「井上流歌集」刊行。	京都 7・7
8・10	京都興行協会、深夜映画をやらぬと一応声明。	
8・11~14	東京芸術座の「橋のない川」京都公会館で公演(住井すえ作、神谷量平演出、昭40・1東京で好評)。	京都 8・1
8・26	安川加寿子ショパン名曲の夕べ(京都公会館)。	同上
8・31	松竹京都撮影所閉鎖(大13関東大震災の翌年下加茂撮影所が開かれ、戦後大秦に移転、閉鎖までの43年間に約1,000本の映画製作)。	京都年鑑 昭42
9・2	松竹新喜劇南座公演(「社長の靴」・「だるまの目」・「接吻」・「女傑ここにあり」・「はるかなり道頓堀」。天外・五郎八・寛美ら出演)。	京都 9・1
9・5~7	ギリシア、アテネ市民祭に日本能楽会が参加、京都からは片山博太郎参加。	京都 10・1、京都年鑑 昭41
10・1~10	前進座創立35周年記念公演「下座音楽立廻り集」、「毛抜」、「巷談本牧亭」南座)。	京都 10・1
10・10~11・16	鴨川おどり(「京の友禅」・「好色一代男」)。	京都 10・10
10・13~27	新春座創立10周年南座公演(殺陣「新刀」・うず潮」・「あだこ」)。	京都 10・1、4
10・15	市川寿海、名誉市民表彰式。	京都 9・14
10・22~24	文楽京都府公演(「帯屋」・「寺子屋」・「重ノ井子別れ」など京にゆかりの狂言や古典名曲6本)。	京都 10・12、25
10・28	エリザベート・シュワルツコップ演奏会(京都公会館)。	京都 10・1
10・一	NHKの「大閩記」視聴率1位をしめる。「信長を殺さないで」というファン投書殺到。	京都 10・4
10・一	10月の能(10・17広田能、10・24豊春会能、10・31離見会)。	京都 10・11
11・19~23	劇団民芸公演(「夜明け前」滝沢修・細川ちか子・奈良明子ら出演、京都公会館)。	京都 11・1
11・24	市会文教観光委京都市立音楽短大の国立移管実現に努力し、その間合理化推進と経費節減の付帯決議、音大存続にきまる。	京都 11・29
11・26	京響、ウィーン・トリオと共演(京都公会館)。	京都 10・7
11・一	大映京撮の三隅研次「無法松の一生」で監督賞受賞。	京都 11・10
12・1~6	俳優座公演(「日本の幽霊」京都公会館)。	京都 12・1
12・1~26	顔見世興行。 ⁽³⁾	同上
12・4	アイザック・スターンと京響。	京都 7・29
12・8	中華京劇公演(孫文生誕百年記念、京劇が始まったのは1760年 北京)。	京都 12・1、7
12・一	人形劇団京芸村での共同生活(宇治市白川の丘陵地帯に約1300㎡の土地を買収し、5年計画で京芸村建設、12月座員の住宅2棟と約120㎡のけいこ場完成)。	京都 昭41・1・1

参	考	日	本

京	都	府
1・10～14 劇団民芸公演(京都会館・郡上の立百姓)。 京都 1・1	5・1 蟻圭介を中心とする劇団京都小劇場が「仮処分の家」で旗上げ。 京都年鑑 昭42	
1・15 大蔵流狂言茂山千作・千五郎襲名記念能(観世会館)。 京都 1・19	6・4 第300回記念土曜コンサート。(円山音楽堂)。 市民新聞128号	
1・16 平野ヨシ没(無形文化財、全国でも数えるほどしかない一絃琴奏者。90歳)。 京都 1・18	6・4 京の4映画館深夜映画強行(東映・松竹・日活等)暴力もの、エロもの中心で反対の声おこる。 ⁽⁵⁾ 京都 4・22、26、5・22、25、6・23	
1・23 市内4バレエ研究所(有馬・石井・上島・大村)が初めて「京都バレエ団」を結成し、記念公演(白鳥の湖)。市内バレエ研究所は約30。 京都 1・26、京都年鑑 昭42	6・10～11 くるみ座公演(創立20周年、イブセン作「ヘッド・ガブラー」)。京都会館。 市民新聞128号	
1・一 人形劇団京芸村を完成。 ⁽¹⁾ 京都 8・24	6・12 モスクワの室内管弦楽団京都公演。 京都 3・17	
2・3 府立勤労会館開場。大ホールは客席1500。 京都 7・20	6・16 第13回国連音楽会「スペイン聖十字架少年合唱団京都公演」京都会館。 京都 6・1	
2・20 創立15周年京都労音(外山雄三曲「労音への交響楽」)。 京都 2・14	6・17 池坊学園、華道会総合本部館竣工。 華道 昭41・7	
2・26 京のハヤシ方で結成している同和会能(観世会館・数十年ぶり「谷行」上演)。 京都 2・7	6・23 第4回文団懇フェスティバル。(京都会館・バラエティショー「日本の民謡」北から南へ)。 市民新聞128号	
2・一 市内小学校の鼓笛バンドは15校(市内バンドは昭35待賢校が始め昭37までに10校になり、昭37・5同研究会結成)。 京都 2・21	6・28～29 すわらじ劇団創立35周年記念公演(ガンジーの一生を描く「糸車の祈り」、京都会館)。 京都 6・21	
2・一 崇仁校、市内初の試みとしてオルフの音楽教育を採用(オルフの音楽教育はドイツの音楽家カール・オルフが大成した子供のための音楽にもられた理論。4年前NHKがオルフを招待して音楽教育界の注目をあつめる)。 京都 2・2	6・一 野外能(6・1～2 第17回平安神宮萩能、6・12平等院御能)。 京都 6・12	
3・1～6 文楽座(杉村春子)京都公演。山 <small>ヤマ</small> 襲 <small>ウラ</small> など。 京都 1・17	7・4 京大オーケストラの東京公演(昭41・12創立50周年を迎える、新宿年金ホール)。 京都 4・19	
3・2 40年度京都市音楽大賞は「交響曲三番」(東京・鈴木匡作曲)にきまる。 京都 3・5	7・5～10 劇団民芸公演(アルプーズ作、若杉光夫演出「私のかわいそうなマラート」)。 京都 7・1	
3・12 モダン・ジャズ・カルテット演奏会(京都会館・MJQの愛称で世界のジャズ・ファンに親しまれる)。 京都 3・13	8・20～25 東京芸術座京都公演(「紅岩」、内戦当時の中国を舞台にしており、アメリカと結んだ国民党側による共産党弾圧を演出)。 京都 8・24	
4・18～23 劇団民芸、「セールスマンの死」を上演(アーサー・ミラー作滝沢修主演、京都会館)。 京都 4・20	9・10 外山雄三、京響常任指揮者となる。 京都年鑑 昭42	
4・23 知恩院に仏教音楽研究所開所。 ⁽²⁾ 京都 4・24	9・15 金剛流重要無形文化財に総合指定、観世会館で記念公演。 ⁽⁶⁾ 京都 9・5	
4・28～29 劇団くるみ座公演(ソポクレス作、宮村一幸演出のギリシア悲劇「エレクトラ」)。 京都 4・4	9・27 オペラ映画「ドン・ジョバンニ」京都初上映、京都会館。 京都 9・26	
4・一 春のおどり。 ⁽³⁾ 京都 4・18	9・一 エノケン、17年ぶり南座で「孫悟空」を熱演。 京都 9・6	
5・7～9 裏千家15世家元継承報告献茶会(平安神宮)。 淡紅 昭41・6、京都年鑑 昭41	9・一 四つの新劇京都で競演。 ⁽⁷⁾ 京都 8・30	
5・23 ボリショイ・バレエ団京都公演(昭32について2度目の来日、京都は初めて)、白鳥の湖、ひん死の白鳥。京都会館。 京都 5・24	10・4 文化革命でわいている中国から天津歌舞団公演。(天津歌舞団は日中戦争当時華北一帯で活躍していた群衆劇社というグループが母体)。 京都 9・19	
5・一 この月4つの新劇公演。 ⁽⁴⁾ 京都 4・28	10・7～28 京都ドラマ劇場結成10周年記念の公演。(ロマン・ロランの「ピエールとリュース」、4日間、山一ホール)。 京都 10・1	

参	考	日	本
(1) 人形劇団京芸は、昭24劇団京芸として発足。同35・4 人形劇を確立、独立採算制をとるため、京芸から独立した。昭41・1、2年越しの念願がかなって、宇治市白川に京芸村を完成、共同生活に踏み切る。劇団員25名。代表谷ひろし。		1・2 藤蔭静樹〔静枝〕没(明13生、85歳、舞踊家)。	
(2) 法要・宗教行事を近代化すると同時に仏教音楽によって大衆の中にとけこもうとの趣旨。西本願寺勤式指導所内の仏教音楽研究会・東本願寺の大谷楽苑につぐ3番目。		3・30 遠藤周作《沈黙》。5・13～5・22<黄金の国>初演(都市センターホール、雲)。	
(3) 都おどり 4・1～5・10「舞扇源氏物語」 鴨川おどり 4・15～5・16「鴨川八景」 北野おどり 4・10～4・25「マリモ笛」 京おどり 4・15～ 「三つの夫婦物語」		4・12 第9回大阪国際フェスティバル開幕(ペーメラのくばらの騎士>・ベルリン=フィル・ヤニグロほか、～4・30)。	
(4) 民芸 5・23～26「報いられたもの」 俳優座 5・10～13「ひげの生えた制服」 劇団四季 5・25～26「オンディーヌ」 劇団雲 5・28「黄金の国」		5・6 ラシーヌ<アンドロマック>上演(日生劇場、浅利慶太演出、市原悦子・平幹二郎ら出演、～5・29、7・4～7・17)。	
(5) 4月邦画3社が深夜映画を発表するや婦人団体・府青年協などの反対をうけ、4・25一たん中止をきめたが、6・4強行。この間社会民労委、市会総務委なども実施に反対。		6・1 3世清元梅吉〔2世寿兵衛〕没(明22生、77歳、清元流家元)。	
(6) 金剛流家元巖「国栖白頭」 観世流杉浦義朗「葵上梓ノ出、空ノ所」 宝生流家元九郎(東京)仕舞「実盛」ほか		9・20 昭39・1・31かぎり閉鎖した帝国劇場新築開場(10・1～10・28、2代目吉右衛門襲名披露公演)。	
(7) 9・1～3 くるみ座「猫とかいながら」京都会館 9・16、23、30 京芸「狐とぶどう」山一ホール 9・17～22 関西芸術座「書けない黒板」京都会館 9・27民芸「私はカメラだ」ヤサカ会館		11・1 国立劇場(岩本博行ほか設計)開場式。11・3より<菅原伝授手習鑑>上演。	
(8) 花踊りは相楽郡南山城村大字田山の民俗舞踊。大正13以来とだえていたが、昭38復活し、8月の200万人盆踊りで披露。		11・3 菊田一夫脚色<風と共に去りぬ>第1部公演～昭42・4・2、第2部6・1～8・31(帝劇)。	
(9) 昼の部 ①天満宮菜種御供・時平の七笑い ②伽羅 <small>めいぼく</small> 先代萩 ③鏡獅子 夜の部 ①菅原伝授手習鑑・寺子屋 ②佐々木高綱 ③茨木 ④義経千本桜・川連館 ⑤廓文章・寺田屋		12・5 財団法人日本いけばな芸術協会設立、42年5月発会記念展。	
		12・26 上田仁没(明37生、62歳、指揮者)。	

京 都 府	参 考
<p>10・12～11・6 鴨川おどり（上田秋成原作、林悌三の脚色の「雨月物語」など、歌舞練場）。 京都 10・12</p> <p>10・12 国立ブルガリア男声合唱団公演。（京都会館）。 京都 10・1</p> <p>10・16 フランス国立管弦楽団演奏会（京都市・京都・パリ委員会などの共催、京都会館）。 京都 8・8</p> <p>10・17 国立ロシア民族大合唱団京都公演。京都会館。 京都 10・18</p> <p>10・一 南山城の花踊りに府助成金。（民俗芸能保存のため）。⁽⁸⁾ 京都 10・5</p> <p>10・一 新劇、10・5～10俳優座（東京）「アンナ・カレーニナ」10・24劇団雲「ドン・ジュアン」。 京都 10・8</p> <p>10・一 「豊春会秋の能」（金剛能楽堂）、豊島弥左衛門が遊楽物「邯鄲」を演ず。 京都年鑑 昭43</p> <p>11・5 京都新聞会館竣工記念の「薪の能」、二条城。 京都 11・7</p> <p>11・6 市民大茶会（大徳寺山内、夕刊京都主催、裏千家協賛）。 京都年鑑 昭43</p> <p>11・13 第13回市民映画祭（今年度の最優秀映画受賞作「大魔神」上映）。 京都 11・14</p> <p>11・13 京都市PTAコーラス交歓音楽会、京都会館。 京都 11・1</p> <p>11・16 ウィーンのパイニスト、イヨルク・デームス3度目の来日演奏会、（勤労会館）。 京都 11・9</p> <p>11・17 人間座の金曜劇場公演（^{あらか}叢の谷）。 京都 11・17</p> <p>11・26 「戦争と平和」（1965モスクワ映画祭グランプリ受賞）。上映開始。 京都 11・25</p> <p>11・一 同志社大学喜劇研究会メンバー13人が同志社寄席をひらく（同大学生会館、会場に1,000人詰めかける）。 京都 11・18</p> <p>12・1～26 吉例顔見世興行。⁽⁹⁾ 京都 11・29</p> <p>12・2～4 「壬生狂言」国立劇場のこけら落としに出演。 京都 11・11</p> <p>12・14 大阪フィル、「第九シンフォニーの夕」京都会館。 京都 11・20</p> <p>12・17 俳優座京都公演「肝っ玉おっ母とその子供たち」千田是也演出。 京都 12・5</p> <p>12・22、24 京響、東京文化会館で楽団創立10周年記念演奏会（昭39・2以来3年ぶり復活）。 京都 11・4</p> <p>12・一 小唄連盟主催各派合同の会（祇園会館）。 京都年鑑 昭43</p>	<p>この年</p> <p>▷ 地元新劇団の金曜劇場発足。 同上</p> <p>▷ 東映業績好評（これまで人気のでない文芸作品から“網走番外地”“日本俠客伝”など中型娯楽作品に切りかえの効果）。 京都 10・27</p>

参 考	日 本

京	都	府
1・16 日本電波映画、経営不振におちいり230人全員解雇通知。 京都 1・17		4・22 豊竹山城少掾(文楽太夫人間国宝)没、88歳。 ⁽³⁾ 京都 4・22
1・18~21 国立チェコ人形劇団、京都公演(アラジンとまほうのランプ、ピノキオなど、京都公会館)。 京都 1・19、市民新聞135号		4・23 春の合同バレエ祭(全京都洋舞協議会主催、34バレエ団体が参加、今年で8年目)。 同上
1・18 京大交響楽団 創立50周年記念 第100回定期演奏会(京都公会館、大5 創立の楽団は同時に創立50周年を記念して「京都大学音楽部沿革史」を発刊)。 京都 1・13		4・一 春のおどり(明治百年に取材)。 都をどり 4・1~5・10「維新前夜」 鴨川をどり 4・15~5・16「蟬丸」と「京の明治」 北野をどり 4・10~25「はまゆうの歌」 京をどり 4・14~29「明治百年・古都百年」 京都 3・27、4・1、25、京都年鑑 昭43
1・22 北川雅楽能60年記念箏曲会(産業会館)。 京都 1・12		4・一 能狂言鑑賞に大衆組織結成(門戸をひろく開放し、自主運営によって観客の好む人に好む曲を上演して貰うのが狙い。 4・25 茂山狂言会、5・17京都能楽観賞会が手始め)。 京都 4・20
1・一 京都でも殺人映画軒並み上映(皆殺しのバラード、夕陽のガンマンなど)。 京都 1・16		5・15 葵祭に今年から馬乗女人も。 市民新聞139号
2・2~7 前進座京都公演(「鳴神」と「演歌に生きる人々」の2本)。 京都 1・20		5・16 仏の国際音楽祭(ヴェルサイユ宮殿)に京都の尺八演奏家北原薫山ら出場。 京都 5・2
2・9 西独ケルンから音楽使節の演奏会(京都公会館)。 市民新聞136号		5・21 平等院御能、宇治ゆかりの通円(狂言)が夕をかざる。 京都 5・16
2・23 3代目広沢虎造襲名披露浪曲大会。(南座)。 京都 2・7		5・一 ゴールデン・ウィーク前年の2倍かせぐ(新京極主要映画館10館の入場者数12万3千で前年同期比75%増、入場料金4千万円、5・10大阪国税局発表)。 京都 5・10
2・一 京都出身のロック・バンド、ザ・タイガースがグラマフォンから「僕のマリー」でレコード界にデビュー。 5・22~23 京都公会館で初の演奏会。 京都 4・27		5・末 京都能楽会、金剛・観世・狂言・囃子方、8人が重要無形文化財の総合指定をうける。 文化庁無形文化課調、京都年鑑 昭43
2・一 第7回邦楽むつみ会、山一ホールで開催(常磐津文之助らの「松島」、清元初寿郎らの「夕立」杵屋勝混治らの「四季の山姥」など。 京都年鑑 昭43		6・1 第18回京都新能(平安神宮)。
3・9 文部省の41年度(17回)芸術選奨に、13世片岡仁左衛門受賞。 ⁽¹⁾ 京都 3・10		6・1 劇団雲、「ヘンリー4世」を京都公会館で上演、芥川比呂志5年ぶり主演。 京都 5・17
3・19 京響94回定期演奏会(外山雄三の4代目常任指揮者披露演奏会)。 京都 3・30		6・2~4 人形浄瑠璃文楽の京都公演(竹本越路太夫・竹本津太夫・野沢勝太郎・吉田簗助ら出演)。 京都 5・22
3・27 パリのシャンソン歌手ジャクリーヌ・フランソワ公演(京都公会館)。 京都 3・11		6・3~5 京都花街合同舞踊大会(歌舞練場)。 京都 5・24
3・28 重要無形文化財保持者(人間国宝)に中村鷹治郎(本名林好雄)きまる。 ⁽²⁾ 京都 3・29		6・11 第5回文団懇フェスティバル(文団懇は会長山田忠男、約180団体、京の芸能100年を特集するヴェラエティ・ショウ。 京都 5・25、市民新聞140号
3・28 名流舞踊大会(南座、第1部八千代獅子、第2部小唄「風流歌草紙」。 京都 3・25		6・11 能の幽花会10周年記念大会(観世会館、あざやかな武将「朝長」。 京都 5・23、6・14
3・一 人形劇人協会発足、京都からも京芸参加。 京都 3・		6・20 第4回創作邦楽の京都特別公演(産業会館、「阿咩」、清之梅吉曲の「小品集」、常磐津文字兵衛曲の「我輩は猫である」など)。 京都年鑑 昭43
3・一 府下テレビ普及42万4770件(78.7%)、京都市内27万8538件(76.6%)、(NHK大阪中央放送局発表)。 京都年鑑 昭43		6・24 市内10館が終夜映画開始(終夜興行は昭41・6スタート)。これに対し婦人団体「三ない運動」(見ない、見せない、行かせない)運動を展開。 京都 6・23
4・1~7 明治百年記念京都御所華道展(京都いけばな協会所属36流派が出展)。 市民新聞149号		
4・11~16 華道京展(36流派が展示、従来の前衛調を一新、自然の心をうたったものがふえる。大丸)。 京都 4・12		

参	考	日	本
(1) 仁左衛門は 昭41・1 歌舞伎座で上演の「廓文章」の伊左衛門役で抜群の演戯を示したほか、6月の東横ホール「伊勢音頭」の貢の「鰻谷」の八郎兵衛にも妙味をみせ、上方かぶきの伝承に成果をあげた。 京都 3・10		3・15 巖本真理弦楽四重奏団、最初の定期演奏会(4・20、5・25、6・26)。	
(2) 明治・大正・昭和3代にわたって上方歌舞伎の代表的俳優として活躍した初代鷹治郎の2男に生まれ、5歳で初舞台を踏んだ。芸風、体質とも父の遺風を受けつぎ、上方歌舞伎の神髓を体現できる貴重な存在で、とくに「廓文章」の伊左衛門役などきつすいの上方和事に精通し優秀な演技を見せている。 京都 3・29		3・31 伊藤熹朔没(明32生、67歳、舞台装置家)。	
(3) 明11東京浅草の生れ、明42、2代目豊竹襲名。昭30人間国宝に指定、昭35文化功労者。昭34・6名古屋の舞台を最後に引退、晩年は市内東山区に居住。 京都 4・22		4・7 第10回大阪国際フェスティバルでパイロイト=ワグナー祭公演(トリストアンとイゾルデ>ほか)・フィルラデルフィア管弦楽団・ソ連国立モスクワ=フィルほか、~5・7)。	
(4) 吉例顔見世は市川寿海、中村歌右衛門、両芸術院会員をはじめ鷹治郎・仁左衛門・菊次郎・勘三郎・松緑・扇雀らの顔ぶれで、仁左の「時平の七笑」、鷹治郎が30年ぶりの源蔵で「寺子屋」40年ぶり「川連法眼館」上演など話題。 京都年鑑 昭43		4・22 豊竹山城少掾没(明11生、88歳)。	
		5・17 ピランデルロ<ヘンリー4世>初演(日経ホール、雲、~6・21)。	
		7・22 ワグナー<パルジファル>初演(二期会、大橋国一・高橋修一・平野忠彦・長野羊奈子ほか、若杉弘指揮、読響、文化会館~7・28)。	
		9・7 パリのユシュット座、来日公演(イヨネスコ<禿の女歌手>・<授業>上演、国立劇場小劇場・農協ホール、~9・21)。	
		9・22 新交響楽団(芥川也寸志指揮のアマチュア管弦楽団)、ソ連演奏旅行に出發。	
		9・29 サルトル作・白井浩司訳<汚れた手>初演(砂防会館ホール、民芸、宇野重吉演出、滝沢修ほか、~11・1)。	

京	都	府
6・30～7・3	片岡仁左衛門の自主公演による仁左衛門歌舞伎の最終回(南座、昭37・8上方歌舞伎復活のため大阪朝日座で旗揚げしたが、一応当初目的が達成されたため)。	京都 5・6
7・15	円山音楽堂土曜コンサート(日新電機コンボバンド初出演)。	京都 7・13
7・19～21	劇団くるみ座公演(京都会館、シェークスピア作「ヴェニスの商人」。市民新聞141号)	
7・24～25	来日のレニングラード。バレエ団(ラチンスキー団長)、「白鳥の湖」全幕上演。同バレエ団の来日は7年ぶり。	京都 7・24
8・一	京都興行協会調べによると京の終夜映画人口は4,500人と推定。	京都 9・2
9・27	雅楽器師山田仙太郎(号頼山)、東京作家クラブの文化人間賞をうける(50年来雅楽器の研究を重ねこの道の唯一の人)。	京都 9・28
9・30	孝明帝忌(100年祭)の薪能(平安神宮、「御代のあけぼの」上演)。	京都 9・21
9・一	長唄研精会の500回記念演奏会(毎日ホール)。	京都年鑑 昭44
9・一	池坊学園、西独ノルウェーなど北欧6カ国に華道文化使節として教授を派遣。	同上
9・一	梅若六郎芸術院会員就任記念能(観世会館)。	同上
10・1～8	2世井上八千代百年忌追善演舞(歌舞練場)。	同上
10・10	第100回鴨川おどり「百福三番叟」、「百回曾我」、「百舞撰」など。	京都 9・16
10・16	初の井上流京舞教室開く(井上八千代)。	京都 9・27
10・22	バリ「木の十字架少年合唱団」公演(京都会館)。	京都 9・23
10・22	第18回文化勤労者文化祭(職域軽音楽会、京都会館)。	市民新聞144号
10・22	京都市民映画祭最優秀作品に東映「湖の琴」、主演賞に市川雷蔵、佐久間良子ときまる。	京都 10・23
10・一	市内PTAコーラスは全市150校中、127校が結成済、このほか現在では4中学にも組織)。	京都 10・8
10・一	京のレコード・ベスト10で加山雄三、ジュディ・オングらのびる。	京都 10・30
11・14	第1回茶道家元会(表千家・裏千家・武者小路千家・藪内家・遠州家・宗偏流山田家で構成)。	淡紅 昭43・4
11・23	京響・東京初演奏。	京都音楽史
11・26	京都市立音楽大教授安倍幸明の作品「小交響楽」がレニングラード交響楽団で上演される(レニングラードで開催)。	京都 11・1
11・一	春日とよ延七寿記念の会(小唄)。	京都年鑑 昭44
12・1～26	顔見世(南座、明治百年記念)。(4)	京都年鑑 昭44、京都 12・1、25
12・9	京響定期演奏会(昭31・6円山音楽堂で発足後100回目。「ペトルーシェカ」・「火の鳥」・「春の祭典」のストラビンスキーの3大作)。	市民新聞146号、京都 12・10
12・一	正月映画は文芸もの、喜劇もの(ソビエト映画「戦争と平和」、フランス喜劇大進撃など)。	京都 12・21
	この年	
	▷ 「装花ジャーナル」創刊(桑原莞爾主宰)	

参	考	日	本

京	都	府
1・16 劇団京芸と人間座が中心になって演劇研究機関「京都リハビリズム演劇研究所」開設、1・16開講（京都に若い新劇人を育てる）。 京都 1・8		3・17 立花舞踊演劇研究会（代表中道清司）、第7回発表会（京都新聞ホール）。 京都 4・3、3・18
1・23 大阪国税局調べ（1・23現在）によると、正月の新京極映画観客は前年比14%増（6館7万人）で、5年ぶりに前年を上廻る。 京都 1・23		3・19 第53回市民寄席、桂米朝「はてなの茶碗」ほか。 京都 2・28、3・23
2・2～8 前進座京都公演（南座、歴史劇「海と風と虹と」海音寺潮五郎作。2部は「芝浜の革財布」）。 京都 2・3、5		3・20 第1回ふるさとの芸能まつり（勤労会館、府主催）。 ⁽¹⁾ 京都 3・12～21
2・11 南座の演芸名人会、笑福亭松鶴（上方落語会代表）と柳亭痴楽（東京）の落語。 京都 2・14		3・25～29 青年座、安倍公房作、成瀬昌彦演出「黒い喜劇、友達」、公演（日常生活の中にくりひろげられる無意識の連帯感にメスを入れる）。 京都 3・27
2・14 ソ連ピアニスト、アシュケナージ京都公会館第一ホールで公演。 京都 2・15		3・25 中・高校生のプラスバンド育成のため来日中の吹奏楽指揮者兼作曲家ポール・ヨーダー洛南高校で指導（ヨーダーは米国とカナダ吹奏楽界の最高組織ABA会長）。 京都 3・26
2・18 京都市主催第1回市民邦楽会（京都は上方地唄発生の地であることから地唄がテーマ。京都公会館）。 京都 2・19		3・27 茂山狂言会、観世会館で開催、20年ぶりに大蔵流希曲「栗隈神明」上演。 ⁽²⁾ 京都 3・19
2・18 能楽協会の催能に金剛流家元巖が「淡路」を演じて好評（東京観世会館）。 京都 3・6		3・一 第2回京都芸術祭「各流舞踊会」（中村万作「鏡獅子」ほか）。 京都年鑑 昭44
2・24 京都出身のムード歌謡歌手愛田健二、チャリティ・リサイタルをひらく、京都公会館（愛田は昭42春ポリドール・レコードからデビュー後まもなく「京都の女」でヒット）。 京都 2・19		3・一 観世春の記念能（観世元正「三輪、白式」、浦田保利「花篋、篋之伝」、分林保三「屋島、弓流」など）。 京都 2・26
2・24 京都のフォーク・グループ、ザ・ダート「ケメ子の歌」でスターダムにのしあがり、京都音協2月例会で特別上演 京都公会館、（ザ・ダートは朱雀高校軽音楽の現役とOBの混成メンバー）。 京都 2・14		4・9～14 第19回華道京展（京都いけばな協会・市観光協会主催、大丸ホール、在洛36流派が出展）。 京都 4・7、9
2・28 花柳双の還暦リサイタル（南座、美空ヒバリ、猿之助ら客演）。 京都 2・21		4・11 府、移動劇場開催（この日から府下小・中校学などを巡回、43年度中公演回数195回、観劇者合計4万5千人）。 研修通信 41号
3・6 アメリカの文化使節として来日したソプラノ歌手のエスター・ハインズの独唱会（「黒人霊歌」と歌曲、産業会館）。 京都 3・4		4・11～12 オーストラリアのエリザベス記念劇場バレエ団来日、京都初公演（京都公会館）。 京都 3・27
3・6 芸術院会員梅若六郎を迎えて京都梅若定式能、観世会館で開催。珍らしく直面もの「盛久」上演。 京都 3・6		4・14 伝統芸能団主催、明治百年記念伝統芸能大会（八坂神社拝殿、なかでも七卿落「久坂玄瑞作詞、三条西季和ら作歌」では維新前の公卿の悲哀を一弦琴、箏の伴奏で白衣・浅黄ばかまの会員が熱演）。 京都 4・15
3・6～27 くるみ座、田口竹男作の「翁家」を続演（三条木屋町の旅館翁家をめぐる家族の人間模様を描く）。 京都 3・27		4・14～18 劇団民芸公演（ゴーリキの生誕百年記念、「ワッサ・ジェズノーワ」細川ちか子、小夜好子ら出演）。 京都 4・26
3・10 金剛流整頓社、創立20周年大会、主宰の塚本昌三「乱」開曲。 京都 3・27		4・18 葵祭行列協賛会はことしの葵祭りから齋王列に菜女2人を復活させることをきめる。 京都 4・18
3・10 観世会館建設10周年祝賀紳士能第5回に「観風会」公演。 京都 3・1		4・20 能楽会は鴨川を美しくする運動の一環として40年ぶり「札の能」を復活（下加茂神社殿）。 京都 4・1、19
3・12 葆光会（矢代仁兵衛ら主宰）第16回開催（山村流若しげの地唄「茶音頭」など）。 京都 3・13		4・30 鴨川を愛する運動に協賛して「加茂川ブルース」発表・フランク永井ショウ（京都新聞ホール）。 京都 4・25、5・1

参	考	日	本
(1) 以後毎年開催、この年は神楽（大宮町）、田楽（弥栄町）、大刀ふり・太鼓おどり（綾部市）、和知文楽（和知町）、おかげおどり（加茂町）、西方寺六斎念仏（北区）、大俣太鼓（舞鶴市）、京のわらべうたが紹介される。		3・11 文化財保護委員会、人間国宝に7世尾上梅幸（カブキ女方）6世中村歌右衛門（カブキ女方）3世尾上多賀之丞（カブキふけ女方）亀井俊雄（能囃子方太鼓）柿本豊次（能囃子方太鼓）ら7氏を新認定。	
(2) 「栗隈神明」は宇治市の南にある神明社の祭りに茶店を開いている夫婦が、集まる参拝人に社の縁起を語り舞いを舞うというめでたいもの。		3・31 杵屋佐之助没（明31生、69歳）。	
(3) 昭43・4のテレビ普及状況は全国では2,027万件（84.2%）、京都府では44万（81.5%）、府下の年間増加数は15,277件（2.82%）、また京都市内では28万5,506件（78.5%）、年間増加数は6968件。 日本放送協会調べ		4・1 東京第一フィルム、大映洋画部と合併社名を「大映第一フィルム」と改称発足。	
(4) 府は地域の子ども会に人形劇活動をすすめ、子どもに夢をもつ場をあたえ、さらに集団生活の訓練の場にするのが狙い。題材は府下に伝わる民話や民謡からとり、指導役は人形劇団「京芸」に依頼。11月文化の日に合同発表会。		4・20 アメリカ政府から返還された広島・長崎の原爆被災記録映画がNHKと民放テレビで放映。	
(5) 梅津の六斎念仏は江戸末期の文久3（1863）年に梅津北町の松本清太郎が千本釈迦堂に伝わった空也系の六斎をうけつぎひろげたのが始まり。		4・29～5・11 人形浄瑠璃文楽の渡欧公演団は4・29パリのオデオン座で欧州公演初舞台、勸進帳、曽根崎心中など（京都から三味線竹沢弥七ら参加）。	
(6) 京都府100年を記念して府立文化芸術会館を建設し、芸術・文化を愛する人たちに発表と相互交流の場を提供し、京都における創造活動の核としての役割をはたす。		4・一 エリザベート・シュワルツコップ（ドイツのソプラノ歌手）来日。	
位置 上京区寺町通広小路 規模 鉄筋コンクリート地上3階地下1階、ホール。展示室・談話室などの施設。		5・3 第1回日ソ映画人シンポジウムモスクワで開催。	
開館 昭45・1・8。		5・24 花柳徳兵衛没（明14生、89歳）。	
(7) 府政100年記念事業の一環として府が5000万円を補助、中村錦之助主宰の日本映画復興協会の手で「祇園祭」の製作が始められ、映画生誕の地からエロ・グロ作を追放し映画の市民権回復をめざす。時の権力に反発して京の町衆・馬借らが一つとなり庶民の「祇園祭」を復活させるドラマ。 京都年鑑 昭44		5・28 第1回いけばな芸術協会全国大会として日本いけばな芸術展開催（～6・2、大阪高島屋）。	
(8) 吉例顔見世は南座発祥350年記念のタイトルで開催。市川寿海・中村歌右衛門の両芸術院会員、中村鷹治郎・片岡仁左衛門・尾上梅幸・中村勘三郎・実川延若・中村扇雀・中村芝翫・市川新之助・尾上菊之助ら出演。26年ぶりに11・30初日、延若のまねきは53年ぶりに揚る。一等料金、3000円。 京都年鑑 昭45		6・22 林家染丸没、62歳（上方落語家）。	
(9) 昭42・11・1予備免許を受け、12・24試験電波発射 昭44・4・1から本放送開始。京滋・奈良および大阪地区760万人200万世帯のエリアに番組放送。 京都年鑑 昭45		6・23 田辺南鶴没、72歳（講談師）。	
		7・8 新国劇とフジテレビが提携し、株式会社「新国劇」発足（10月、新橋演舞場で旗上げ公演）。	
		7・28 前進座、総会で正座員62人の全会一致により河原崎長十郎の除名を決定。	
		11・7 日本いけばな芸術協会に不参加の作家ら、日本華道連盟の結成式を開催。	
		12・30 杉山誠没、61歳（元俳優座演劇研究所付属俳優養成所主事、門下生約1,000人）。	
		この年 ▷ 新劇界の離合集散さかん（4月劇団NLT内部の対立から演出家の松浦竹夫ら4・17浪漫劇場を設立、5・20劇団青俳解散し岡田英次ら現代人劇場を結成するなど）。	
		▷ 俳優プロによる大作があたり映画復興のきざしをみせる（黒部の太陽・祇園祭・風林火山など）。	
		▷ 43年度全国映画入場実績（昭43・3～44・2）によると、入場者数3億921万6千人興行収入831億円で前年比人員7・1%減、興行収入4・6%増。	

京 都 府	日 本
<p>4・1 花街春のおどり(4・1～都おどり「舞扇観世水」、4・10～北野おどり「雪に啼く」4・14～京おどり「京都風土記」、4・15 鴨川おどり「京の川」)。 京都 3・2～30、4・14</p> <p>4・1 観世会館内に能楽研究所開設(観世会館10周年記念)。 京都年鑑 昭44</p> <p>4・1 府下テレビ普及は44万47件(81.5%)。⁽³⁾ 同上</p> <p>4・1 新劇金曜劇場、京都ドラマ劇場が「大麦入りのチキンスープ」公演。 同上</p> <p>5・8 京響特別演奏会、(歌劇「蝶々夫人」、京都会館)。 市民新聞 151号</p> <p>5・18 アマチュア演劇サークル“ごんべえ”教育文化センターで旗上げ。 京都 4・12</p> <p>5・19 近畿地区淡交会合同大会(京都会館)。 淡交 昭43・7</p> <p>5・19 古典芸能を公開する「日本の宴」(京都会館。能楽の金剛巖、常盤津の西川鯉三郎、京舞の井上八千代らが顔をそろえる)。 京都 5・18</p> <p>5・24 第50回市民狂言会(観世会館、大蔵流茂山社中出演)。 市民新聞 151号</p> <p>5・28 アメリカ「少年の町」合唱団来日、京都会館で公演(京都など30都市で公演)。 京都 5・24</p> <p>5・1 府、わらんべ劇団計画。⁽⁴⁾ 京都 5・5</p> <p>6・1～2 平安神宮薪能。(金剛・観世・金春・狂言大蔵流出演)。 京都 6・2、3</p> <p>6・13 日本政府派遣文化使節団がアメリカ・メキシコ公演。(6・13メキシコシティ国立芸術院劇場、京都から井上嘉久=親世流シテ方、森田光春=笛方、林吉兵衛=小鼓方が選ばれる)。 京都 5・30、6・20</p> <p>6・27 京響第106回定期演奏会(ソ連の新進ヴァイオリニスト、ビクトル・トレチャコフをソロイストに迎えてのチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲など)。 京都 7・1</p> <p>7・2～8 南座で新国劇公演(「ああ同期の桜」・「三匹の侍」上演)。 京都 6・26</p> <p>7・10 創作邦楽第2回京都公演(シルクホール)。 京都年鑑 昭44</p> <p>7・12 京都府企画の短編工芸技術記録映画「鎚起」、43年度、教育映画祭の特別賞に選ばれる。 京都 7・13</p> <p>7・13 梅津の六斎念仏は、昭39夏以来中断していたが、4年ぶり復活。⁽⁵⁾ 京都 7・13</p> <p>7・14 伝統芸能のつどい(京都市自治70周年記念、在洛各流派のトップクラスが出演、とくに“声明”引声阿弥陀経が関西で始めて舞台出演。 京都 6・5、7・13</p>	<p>7・1 7月の金曜劇場は劇団くるみ座が「劇と詩の夕」を上演(山一ホール。サミュエル・ベケット作大浜豊演出「芝居」と三好達治の詩の朗読の二本建)。 京都 7・15</p> <p>8・10 宮川町の京おどり作者で舞踊演出家谷村陽介を団長とする日本代表芸術家欧洲視察団10日羽田発。 京都 8・12</p> <p>8・1 京の映画街夏の陣(目立った傾向として①終夜映画人口の増加②「東宝、聯合艦隊司令長官山本五十六」とユナイト「卒業」の大ヒット③邦画シリーズものの不振)、8・17には市内20館が終夜興行。 京都 9・2</p> <p>8・1 ふるさとの芸能と盆おどりのつどい(府立大ランド)。 京都年鑑 昭44</p> <p>9・6 第6回文団懇フェスティバル(京都会館)。 市民新聞 154号</p> <p>9・25～29 劇団京芸と人間座合同公演(人間座の田畑実主演、京芸の藤沢薫が演出、上演作品は「金魚修羅池」。 京都 6・19</p> <p>9・1 デンマーク国立音楽歴史博物館の招きで京都から菊水流尺八宗家菊水湖風・舞踊家若柳吉千歳・箏曲家野田典子・西村弥生の4人参加。9・14から50日間演奏旅行。 京都 11・19</p> <p>10・10 観世会館建設10周年記念京都観世能。 京都 9・26</p> <p>10・24～27 超前衛アングラ演劇、鴨の河原で芝居(唐十郎主宰劇団「状況劇場」が東京から来演)。 京都 10・16</p> <p>10・30 府立文化芸術会館起工式。⁽⁶⁾ 府政だより(資) 157号</p> <p>10・31 第162回上方落語之会・明治100年落語名人五人会(京都新聞ホール、桂文楽20年ぶり京都の高座にあがる)。 京都 9・25、11・6</p> <p>10・1 山鉦館完工(祇園祭山鉦収蔵)。 京都年鑑 昭45</p> <p>10・1 南座、前進座公演(棒しばり・佐倉義民伝)。 同上</p> <p>11・8 バレー「ミランダ」公演(明治百年記念、文部省芸術祭執行委、京都市ほかの主催でバレー界合同出演)。 市民新聞 157号</p> <p>11・10 第15回京都市民映画祭、京都会館、最優秀映画賞に大映「華岡青洲の妻」がきまる。 京都 10・15</p> <p>11・16～17 関西人形劇フェスティバル(勤労会館)。 京都 5・18</p> <p>11・21 映画祇園祭完成試写会開催。⁽⁷⁾ 研修通信 41号</p> <p>11・29 京響が明治百年記念で地方公演(11・29名古屋、11・30三重、12・1奈良、12・2京都、12・3神戸)。 京都 5・18</p>

京 都 府	日 本
<p>11・30～12・25 南座の吉例顔見世興行。⁽⁸⁾ 京都</p> <p>11・1 米国で催される第3回ジャパン・アート・フェスティバルに華道嵯峨流長谷川菊洲ら14名参加。 京都 11・9</p> <p>11・1 故今井栄次郎50年祭記念能(今井幾三郎が老女物大曲「姥捨」舞う。金剛では23年ぶりに披露)。 京都年鑑 昭45</p> <p>12・24 近畿放送テレビ試験電波放射(昭44・4・1本放送開始)。⁽⁹⁾ 同上</p> <p>12・1 市内直営封切館の入場料金値上げの動き(昭42・12末380円から400円に値上げ、昭43・8お盆興行は450円、12月の正月興行から500円)。 京都 11・9</p> <p>この年</p> <p>▷ 寄席ファンふえ始める(落語に若い人がふえ、女性客がめだつ。大阪は漫才)。 京都 11・20</p> <p>▷ 池坊華道文化研究所学校法人認可。 いけ花歴史年表</p> <p>▷ テレビ時代劇制作は数年前の2・5倍にふえる(京都で東映京都テレビ室と松竹系の京都テレビで制作)。 京都 11・30</p> <p>▷ 京都を題材にした歌謡曲が再びブームをよぶ。 京都年鑑 昭44</p> <p>▷ ザ・タイガース・フォーク・クルセダーズ、愛田健二、ザ・ダーツなど京都で誕生。 同上</p> <p>▷ 洋楽では京都市交響楽団のあり方が市議会で追求され外山雄三の進退論に発展。 京都年鑑 昭45</p> <p>▷ 京都労音が内部の思想対立から演奏例会中止。 同上</p> <p>▷ 京響の43年度演奏回数市内60回・80ステージ、市外80回111ステージ。 同上</p> <p>▷ 府興業協会加盟劇場・映画館69館(昭41—78館、昭42—72館に減少)。 京都年鑑 昭46</p>	